世親遊してゐる、右司

用機の出所は戦略しないが、イタ

日同盟」イギリス人サブイルス氏

外國分子と關係なり

隊は革命軍援助の目的からジブラ 楽結し香飛に當つて居るが、右壁 一般はジプラルタル軍衙に艦隊を

【ストックホルムヤー日同盟】

國幣小社京城神社宮部仰付らる 市 秋弘

スエーデン政府が

モラ將軍は語る

中 の他の何れの外層分子とよりほと の他の何れの外層分子とよりに 同題でありドイツ・イタリーモ

1テン戦別スペイン公映モーグラーテン戦別スペイン公映モーグラ

◆川宮大佐(顔銀草粉)十二日 ・十二日午後二時五十分京城驛寄 ・小二日午後二時五十分京城驛寄 ・11日午後二時五十分京城驛寄

ツセル・アトレ・ロマノ紙は、ナ

一般が戦者した、有軍 され、死亡書一名を出した事他に 振地テッアンに十日 ホン 膨大外において快速艇が興撃

駐前イギリス大使チルドン氏はヒ

既を受け、サブイルス氏は側死、天

人は真似した、金銀によりイギリ

残虐極まる 宗教迫害

ル威に引下決定

亦軍兵力は一躍激増

國策決定は本末顚倒

くご睨み合せての

字垣前總督廿日迄

から、國策決定が遅れるに從つて

【東京支配特配】大野政務認証は

を始め永田拓務、馬根大庭その他 の開放前に平沼檀府職長、青木信 日にかけて原田資相

機果上中の大竹四種局長、新見二十分館り懸談を遂げたのち、

BT 日本版正整整體 2章、八宝 日益を終り、旗殿の事務語りなく 物紙、伊樹野弥織 2章との志郷・ (職を興へることに悲僻し掛られる) 学手八 雲 中艦 【ハバナ | 四部版立に搬し昨日まで本門なる 山まで記数りの上離壁神器 | 年頃大井 | 四部版立に搬し昨日まで本門なる 山まで記数りの上離壁神器 | 年頃大井 | 四部版立に搬してまる | 百間本年度の大事業たる解謝布強 | 京まで記数りの課意機を周尾、巻 (の歌雕を歌話)に立てなる 窓とて、学手一八雲 | 中間 | 日本版立に搬し昨日まで本門なる 山まで記数りの課意機を周尾、巻 (の歌雕を歌話)に立てるる窓とて、全井田町戦の事態は立に変わる窓とで、「一日」 | 日本を終り、「一日」 | 日本を終り、「一日」 | 日本の一日 | 日

で共にしたが、一ヨークに赴く害である |開催は十一日へバナに入港、存留|

路東京

虚叩を終へ愈よ今十二日午後三辟 即分行く朝鮮の多季を喰るものであった。かは今井田前島職は十四 瀬田前の政路を併削、帰頭百姓り 出田前の政路を併削、帰頭百姓り 日午前七年東京縣音の割であった。

出るか至く環跡を許さぬところで大將として果して如何なる行動に

ところである。しかしたがら宇宙 ところである。しかしたがら宇宙 ところである。しかしたがら宇宙 と続け、消滅その他東北の各様に対するととては、その条界手順方

十一日退鮮した宇宙問題質は二十十一日退鮮した宇宙問題質は二十日まで民歌願三朝選集指摘設部に寄在し、東京四谷原内殿町一番地 た契約者に對しては、その保險金 なつた、なほこの揚度額は十一月保險網を七年以上羅胺して歸込ん され十月一日から實施することに 昔をもたらす保臓器類原態度が第一て、これに賑する顕彰職者を命令勇能職者生命懐臓の加入器に大誠。月分を誘惑するい。風にたつてゐ方能職器として翁を纏聴してゐる。月分、十一年賦青のものには八ヶ大部院議として翁を纏聴してゐる。 にも質慮もられるをとなった、一家規則の敗正及告がごの理話表 保險料割戾制度 **今井田前政務總監** 朝鮮も實施 簡保加入者に大福音

つてはやる部下を押へ来たつたの

国よりの報道によれば同地方は今 **敬戦開始さる**

13

世繪 作

記るせら

は内相)

治するものだ 慢性も治療の にとんな

1

・ 五はかりの小姓だつた。小姓は丁 ・ は断かなかつたが、どうやら会園 ・ は断へてゐるのであらら。右手に ・ 海がなかつたが、どうやら会園

東京市金融資 時高 院 長

世界の配表の概要の配表へ、 を表しても脱系のの形はないが、 を表しても脱系のの形はないが、 を表しても脱末の形はないが、 のなきを表しても脱末の形はないが、 のなきを表しても脱末の形はないが、 のなきを表しても脱末の形はないが、 のなきを表しても脱末の形はないが、 のなきを表しても脱末の形はないが、 のながあり、 のない、 のながあり、 のないがあり、 のないがり、 のないがり、

行

とが既に包んだまい設せられてあ

死滅せぬ 薬で斷じて 淋菌は内服

#間はそれを受取ると、直ぐに

のが経験の単位とした。 のが経験の単位とした。 のが表現でしたがありたれば、 のでは、 のでは、

は困難、腫は出ぬがどう

ケンゴールを推廊す。

染急性症並に慢性淋菌を撃滅す一行質最强力ブラオンギンは初感淋菌撲滅の根本原理を用ふる滲

田谷病院長世世士

H

谷

利

男

たが、恋よ十六日からこれを復帰 がおてから 源信省と 問題中であつ へてゐるので、遊信局では在命令 と、片外壁を乗せてゐた方の想記

して好感を寄せてゐると際(られ) 一等方法出しる政事首令皇師復久の教学 年大勝の行動如何によつて「即時令員との間に事効引載を写し、「然外に他のでは「大鵬越を襲ふてくその他」のので、寒る十五月午前九時度気候のではらて重勝されてゐる(劉武、こので、寒る十五月午前九時度気候の「という」という。

部製へいる が作用、 断が作用、 で

勞働者はいくらあっても不足

間から

てくんねえ。堀坂稲の石壁下を左「こゝへ人を送つて来た「端はず他の右をお山の方へ踊つ」るやうに小聲で去つた。 て张たこたア・ から、追ひ被せ

いへえ、もう、決して申ずこつも もやアならねえ

いのであるが、厳奏の、まして掌上、鵩の変音に立つてゐた。 すると既出て、人の目を頼はずにはおかな」、紀へ立出でた熊姥辭は、既に茲 面を下げ向けた。

何やら腹肝を抜かれて厚えてゐるに後から出て来た二人の小姓は、 こちらくお通り

廓遊原吉京東前 明發製創生先榮藤佐長院病原吉

窓す、野政なき観者は酸帯便用し鉄治せられよ。の疑問は就装観者観々観治、天体財用の強力も決

河原商店

ンギ

此の酸低は歌地突と動十 の整心、平脈に突然の配御 がは起源の動一血血い液で を変が表の他の心でがの がは起源の動一血血い液で がは起源を続くるも ので、下に変派を防い液で がいたであった。

合名 東 製 薬 製品

普及藥 一·九〇

二五元(約十四月最)三円八十銭三五八五(約十四月最)三円八十銭日最)十 円八〇五(約十十四月最)十 円 円 後間には市後は 6型一回用 4 ペレ。

電話三田(一)六八元番

殊技術者くは研究の中語を「長、出郷歴度武長事と配信すせの」たほ悪質の出廊は大鷺ニト三日の徴兵の逾離を用下げること ともに大竹内弥局長、著貝入事派「水田郷山中将の建懶頭に源んだ、傾向水神が相常上昇し出り アートラー 所に入り来合せた大野蛇弥漫師と を交け年後は都行師で行けれる故漢により、ソダエート青年 所に入り来合せた大野蛇弥漫師と を交け年後は都行師で行けれる故漢により、ソダエート青年 所に入り来合せた大野蛇弥漫師と

1973年の「中国・1978年 | 「東京支統特権」 東場首に十二日 | 日程音音点標準の振動器は反び語彙を対すの場所 | 分類化験を入り、直もに東京新物 | 書もとけたのも、配置等重の振動器及び語彙を対すの場所 | 分類化験を入り、直もに東京新物 | 書もとけたのも、配置等重の振動器及び語彙を対する。「東京支統特権」 東場首に十二日 | 日程音音点視定の膨脹が重要を終していました。

大野總監は十九日發

に決定、十一日その言題表し

動きは注目

重大な影響を受けん

|| 「東京電話|| 宇垣大橋の頸鎖總督|| 解母雌雄も今回韓軍の粛軍を兵器|| すら自雄自度政策の東田を禁ひ、|| 総大なる國院教と眩聴の副和殿監察の一貫・「東京の後立の世界を持ち、一般大なる國院教と 医臓の副和腹腔 とする定即果訓の終了と我に急運に立版田内閣の國際影響をは続くて中央監察なり、近面が何談響を強った。 大一日東東線を見、宇宙大府はいとく 数のの高回数を建りつくある。 これ、中央監察な事の 折続宇宙大路は かった 一世の歌舞 安年の 折続宇宙大路は かった は音方面から彫るは形まされてある のまみ掛く、今後音節十年を徴みたる。 かいました。 かいまた。 かいまたりにたいまた。 かいまたりにたいまた。 かいまたりにたいまた。 かいました。 かいまたりにたいまた。 かいまたりにた 労働治狀況観察のため約1週間の

| 登定で北崎地方県祭中であつた本 | 日後東上 | とここでであれ、日本社 | 日本社 | といったが出る | 日後東上 | 日本社 |

天地玄黄

た。豆ならば見渡す風り一面の盆 こいつア大脳な仕事だと、云ひ合物の二二はまたょくうちだつ 訳つた金は、台せて確かに二分包、歌包のまょではあつたが、等で んとはづむから急いでくんねえこ

金取にはなか(一意固地なのがれずら見富がつかないのに、倍 どれだけ出來る金粱やら、そ

「これ圧音とやら、よいから案内 手削はそのやうな母分の者では、 『はい。有能らはこざいますが、

しも巡旋には及ばねぞえ。」と

た

外

能は

優しく

云つて

、

要へくと連れ

アリ頻散文・毎は柳期記名フ初頭塩・念性・慢性・増入用

理店 河原商店

規模の6の旅客は電車で採土里縣と連絡してあるので、採土里縣は大龍難を起してあるが、現場に破か、サの設水をしたので列車は破験が能となつた、上り列車は建土电纜から近ぶし駅鞭をしてある。京京城湾に乗上流の京宏線西水川、渡汽車間と渡汽車、水纜車間は十二日午割八時には続係上に用五セ京城湾に乗上流の京宏線西水川、渡汽車間と渡汽車、水纜車間は十二日午割八時には続係上に用五セ京

|四種と他山路経界所有ポートー後||門者では水防路。前事孫所と協力、

外五十人の会計住民を高いの水源

は全部浸水、三面泥海と化し東大線に迫つた、東西凝結の土三百百

所はは総数行人をそれた(敷持) 減し、脚に利々と増水、午前六時一部所収六十人、選注が投稿。首人、水位九米九四を架破、十米三五を建築設故。百五十人元津清郎郡一時に並り昨年の大水常常時の総品

米た、旭川一帯午前九時の副師書

門の水位十二日午町十時十一米 一般など同十一時年は十 「〇類で記載水の原向を示して

往十里から折返す

けさ遂にて

チ増水しつつあるが加山器と加山 カ、管殿地域の住民を飛ど安全地、駅市駅時間の銀編は一時間候四セン「総である、旭田界では近傍壁と屋町1 コード 日午前九時危殿に融した京城 | 門間閣の優勝なくして破水する機・1 日午前九時危殿に融した京城 | 門間閣の優勝なくして破水する機・

警察と水防團協力して警戒

三人西水中六三人計七四六月二人指加人之石一八二人被闰二〇

| 腕の心死の勢力による強縮工| 常に避難さした、なほ十二日朝の

名は麻浦町森英型技能江町原発学 右のうち確失四戸、確失のをそれ

各所に收容 **池山方面狀況**

事によって防水に努力しつるあり

他山菅内技水狀況左は左の如し

◆元町一六四・麻浦一三○◆徳 氏の食服その他に敷容した

飲の選手の際にかくれるやうにし

スイスのタンメル選手を判定で搬 スイスのタンメル選手を判定で搬 スイスのタンメル選手を判定で搬 スイス)

橋岡判定で勝つ

危險迫る漢江

もう今のどころ心配ありません

日本クルー

ï

一九 一九 六 六

九九〇二十二四

一一三 八一時 三一時

つ、田の合語

一二二五三时

◆養誦十六 三二 (二時)

豫選第三音

榮冠の感激に泣

學友等の蜈蚣がドツト爆弾した相投相山生式氏宅さはイマ子夫人や 名言用市界が富士強町相山女教校的機嫌が投跡の核びに就郷した、自御機が投跡の核びに就郷した、 山校長は特びの興酸を順に浮べな 傳へられ心配しました併しよく。らくしてスタンドに來たとさはす。 ドイツのゲネンゲル鍵の好詞が。 はよっと泣き動れてしまつたしば

【ベルリンオリムビックプール十

つめた架様はにはかに総分的概論。 日本の人選に何か際へる事はあり

昇東線の

列車颠覆

別するばかりで

重場書三名戦優巻九名を出した、現場に水殿から東村蔵事出歌戲献したが、十二日午前七郎の別爪か年川縣間を測行中、綴路が落雨のため観んであたたの別爪は壁域難覚、繋落杖、干名の中気書一名、午二日午後入原井門分場、水殿から羅州に向ふ東鬼謡道で戦戦二十世半世戦手商本博(よー)が復日・十二日午後入原井門分場、水殿から羅州に向ふ東鬼謡道で戦戦二十世半世戦手商本博(よー)が復日

ーニ名死傷す

上りつのぞみら

対除を組織、木造断二段をもつて

ら便前即不省、野川地方は土

さしもの半身不隨・舌もつれも

臨時編成

別決場の限あり別左住民はボブラー・一日午町十時京城府鷺炎批問版 日子町三時が町町西江野通学校に 失したが人当に被害なし 花町の四十戸に漫水し内五戸は流 のぞみゃは粒十分延着するので

里へ動者「別ついき輸送中である」一時半第一級の四百名は無事化十

朝を光頭に律丁里へ帰ばしたが十

支那ス

イ退去

自一在城城

南川にナンドル

五戸流失

一戶中一名、元明江面事物所 戸州名を収容した **泥海の藁島方面**から

御館を御見送を辱うし ならぬ御懇情を家り尚こ 在鮮中は公私とも一方地

批出の民国別が創むは近欧される

ことになり、山東省が小鵬行家が 十四日機がされたスパイ酸価税用

原壯方面から を救出 往十里普通學校に收容さる 四百人

尿春不通 郵便も不着

京城地方

[不吸] 提終

夏の食卓に

香味爽快

愛政

師郷した、即頭には「川際常

移動することにたり水道船二十段してある。一方原址方面一番は十 他則に加事務所の問題にて に危険が即はるので独下里へ避難。つて避難民は位きわめき民族を長 時避難せ しめたが観して場た家族の安吾 家財道具を 心配したり

引つとき機能を物送中であるがは。除人の避難民を一時低級に避難せ 一選したので東大門網では十名の決 しめたが水位は頭に十一米二〇に

昭和十一年八月十二日 発有厚く御禮申上行らず態々御見送行以炎暑の候御行別の御怨情を蒙 田 爲清 子德

治水により十二日京港川交通社紀 いた蘇南のため京東管内王勝川の【菅川威語】十一日より除りつい



第一隻、海上は霧がかくる【明日】 诞廿度四(十二日)近年北温度 (十二月)最時世紀

試みられよ

全放天氣像報

十四年に次ぐ洪水

けさ京城土木出張所の發表

さ百五十米區間工事中にて(昨年洪水位十米 遠し土壌にて昨夜米防水工事をなすその盛き 五〇まで防ぐ豫定のところ)今地頭十七米に

合は少く洪水も今のまく増水なきときは暖高

て今の増水別合ならば土賦築立は増水よりも名く、院がも得る場合なって土の年の渋水に建し、大平六九米〇一、大正十四年の渋水に鉄(十八米六九十七)に次く返し位の大浜水なり

十八米二〇なり、なほ織鼠しつゝあるをもつ

濁流怒る漢江

子。 随有 产生产 強軟機制

仁川の潮時

本年洪水位は摩迦十二日午期十時,河川標高

日午期十一時二十分京城上本出張所の 漢江洪水狀况

丁七来の〇一(旭川樹木低にて郷十一米)に遠

時間ニセンチ増水しつゝあるも増水の間

胃腸障害絶無カパーカバの 錯 大 胺 率化型研究所 店支城京社會券證業勧本日 振替京城三九七十里站本局80五克城局的大照道。17日二十2 東京日本都業銀行構內 債福 券合 -694 m = 686 + 64 m 44 m 現地理性は現在である。 現地では、 のでは、 ので 在首が面積が直向が近極面は雪っておかちっ

生徒募集 衣糖 カバーカバ 錠

カブセルを殴した、

用語本稿(1000)八谱

6E 赤一

赤一 道卿 **院**完

人 上酒 病 赤

棒瓶 自動車技術員養成所 髪の命は黒髪









乾雷池

ノ世界をあるの頭痛薬

早く龍質行される標類膜の致します神戸市原所虎百早く龍質行される標類膜の放しました。 こしもの埋身不関や行る力も、一日 〈と良くなり今では横列通り離りありと・り一日 〈と良くなり今では横列通り離りありと・り

へと良くなり今では仕事に從事

E TO PO 最守。代理店。てお買上。

ツツ丰商会本店 京城 大阪



「循環を良くすればどうる血液を浄化して」

ッが原因

神經痛に

連續降雨に祟られ

王嗣の解狩壁折

折角の代用作は腐りはじめ

木刀を掘つて質叉型世(土)と北菱 けつけた所機器はに逃漕されたが脱ったは厳熱のためか栗和総はしたほも暴れ難つてあるところをか || 御内東面中原里六九子難伊長男隶 || 三の類部を殴打、重偽を亘はせ、

猛雨中に指別

堪へす暗波にむせんだ 部で、韓田常長、梅原山長初の官 めけず帰頭には湯川減原男は、宋

【大師】十一日午旬十一時頃優州 | を飛び出して同里金装の母李女(4) 町器餐の乾燥)

共元を風打死に至らしめ連に家一事女は生命危害である

た理能

山林の害虫を喰ふ小鳥への 慶南の試み大成功

の小島の巣猴を配布して穀林の日、壌中岸ボ等を改取し茶半続方の屋、殻鱗して居る處へ谷川端宣が戦災。十七萬トン請水がみられる足込鬼業。居民、殿麟の三都へ六十樹。松に疑人し女妻や現金、ブラテナ、蘇部郷は等、指等の貢獻に拙せす。もう「開遠毘に来れば七年接に三 する小島のため昨年十月線融価に、ち十二日午期四時線所労합制の数(んとしたので遠に説明となり配置(ほグンく(財政しつくあり、あと)観心増血などの配虫を好んで呼貨(物所を出所、ぶいくして居るう(安主佐が絶民、認向するで激起せ、ふえ二十五萬トンを突波した、な配や増血などの配虫を好んで呼貨(物所を出所、ぶいくして居るう(安主佐が絶民、認向するで激起せ、ふえ二十五萬トンを突波した、な配めの地がほどんと **総百ミリで水源地の脱水はぐんと** 【劉南浦】盆地十月の除雨五十九

日国にの任るが、なほ尿罪ある見 満水に一息 南浦上水道 貯水量增加

被認着等の申訴を合計すれば六七、「歸途、翼上げ金廿圓を総失したの」の山中で强欲に襲はれ所得金を嚴に駈けつけ力を合せて逮捕した。「蓋が数文(*)は十日夜鶴瀬市日の「路域監補からの歸途、沙上縣附近 ため十一日蜀釜山野へ同日午前一一れて海野廿九日に協識されたでやかましいい女房の手頭を纏ふ「軽されたと居出たが北の姫が剝が

密界の恩人ベルツ博士

梅毒

0

知識

彩筐に驚嘆

平壌の樂浪遺品を

高と江西古墳を見て十月東京に向る。 し半風物の館にて美道形像塚の形 に東げられてゐるものと見られて タカッシュ氏は九日奉天より米隆 回のモヒ取締織並展覧方針の槍士 ハンガリー国立世物館長グルトン ハンガリー國立院総裁長グルトン | 随役として知られてゐたとけに今 [中選] 日本文心殿院が指院した。誠中であるが同人はモモ鉛質版の 歐洲の權威者賞讃 漁場に天然痘

は治療を誤ると

い病變を起す

驅梅療法と患者の心得!

Ŕ

つたが同民は避る

ハンガリーと東洋光油は既とは (本語) 砂定地様子面数年影響場に乗た目的は小泉館長が設施し、 飲食店業業 (三)仕去月来大神よりた「窓区」を見るためだ。 質に (教達) 教達し、(大声) 砂定が返し を見るためだ。 質に (教達) 教達し、(大声) 砂定が進まる一日酸同・十日診し、人の発し、を見るが、一般に関していません。 | は同氏は欧洲における東洋史配 | が源里であり出入がはげしいので 脳の結果天然間と特別した、場所 照染の供れが多分にあるとの通知 に接し木川岩から風公園が現場へ

概となり最近では六十個の重相をにも吹き飛ばされず外頭の映幅をにも吹き飛ばされず外頭の映幅を

利用する小島が九〇パーセントの

じめ安全で日常りがよく風にも雨日臨から可憐なか鳥が変を見せは

當りのよい樹木を選んで取りつけ

たがその後副重の結果、約五十日

送金横取り 高飛び男捕る

本のくり扱いた前へ一寸底の小型。つた際契加観賞、脚下に墜落した。れたが無許可のものと「見られて」は乾燥してほといと石炭空長短脚を膨脱してみる。東程は自然。て廃走中、乃域的更多常味に新掛。取調中、積 級の穴 蹶性療態 を第一直殺の嬲さへあるから右穴名に競木のくり扱いた前へ一寸底の小型。つた際契加観賞、脚下に墜落した。れた が無許可 のものと 見られて 「東乾燥してほしいと石炭空長短脚本のくり扱いた前へ」寸底の小型。つた際契加観賞、脚下に墜落した。れた が無許可 のものと 見られて 「東北海」でものであるから右穴名に最本のくり扱いた前へ一寸底の小型。

したトラックが奉化都万城に向け、日下所郷が民地当に急行戦雨中を「いたゝめ、名響を襲載され、縁は「大郎」十二日正午戦だ戦を遊越。ゐたのを知らなかつたものらしく「樂したものだと属しゃかに尊を播

危ふく爆發を免る

奉化署不審な出所を探査中

配により十日間地震器と逐漸さる。窓港を曇る様た関議に登出岗近のこのは禁患するが、之れを履生下落版、事北を観に高飛びしたが手、ソンの腕脚に預難出身の振選手が、コロインが出来る。不注意な人はという。で、景部に係みと導みさない観いをうけ観査員 面を取されたのを「楽山」オリムビックの主座マラ て、景部に係みと導みさない観いをうけ観査員 面を取されたのを「楽山」オリムビックの主座マラ て、景部に係みと導みさない観いをいる。 毛利似言氏より本月八日送金依頼 配人事億萬(こ)は同原館に留中の 【鍵南浦】府四三和町浪花旅館元 「確立協語では英丈の気を吐いた孫」「經遊が掘れる。この時は既に敬敬」」にを誘かしたが、「慰賓道と暦の兩」群といつて、趣に衆国際に達し、

ら大歡迎 マラソン王

釜山の計畫

て、局部に領みも痒みもない硬い

梅毒性の神經衰弱も

今はなく仕事も樂に

山形羅果造影 佐 野

は現れない。大凡三語間は過ぎ

一期梅毒

|線吹出転、遊響観聴、階観後、君 | 亡し家族子供を亡し、途に民族国魔等、衛歩、福歩、鹿歩、ニキビ | 人は、一日も遠く質疑あれ、人を

とんだ藪蛇

女房怖さに

並山 3 毎川府佐川町 亡四三 総伊 れた 戸 通知があった 厄險に瀕 偽强盜中告

情用。诞子が励明するを使つて輩山

が金科に受延した記述で、指揮な

八も、すつかり破れてゐる。

第二期梅毒

後難を恐る

東萊の帰盗

殆んど全戸浸水し 水防團警戒に狂奔

電に範囲爆来、十一日午後に至る。動で軽戒の結果率もじて運行して、大郎】九日午後十時年春に都一、数ヶ所危職に滅したが帰職部盟出 遊邑内 は殆ど 床上、床下 に逃水 「は殺水家 鼠を出し た被馬荊大 の川は二米峰の増水で発通社総、乃」は各 所に帰謝 れあり天安市 中で **や路り続いてをりこれがため万城 | ゐる、各河川は氾濫し山田地帶に** 万城川の歴院も刻々危険に歌し

のを此の潜鬼衆暑で操知し他人性。十八銭を加奪逃走した事性がある

数くといふ風で、干売萬川の症状 高、頭浦、神霊抜戦の外、疲労が が、統三二ヶ月の間報をおいて、

> 皮膚病も影をひそめ れ程ひどくなった

愛媛曜字摩 石 川

て国出をしなかつたくめ時機を他、出设と消失を鎖を住中であるが被除者が後継を恐れ、が、約二三ヶ月の即

してゐる。

方へとの帰続が抑入り場金四十四 【章山】去る一日の午割一時四十

分里ない音が同米の世紀女子の一て現れ、総然、쌔節術、毛座の肚

〇門等の総談に、機々の形となつ

惨が出逃する、口中、咽喉、肛門

金引の皮骨や精酸に、標々な趣

【満州】早魃の悩みがやつと消え

智よりの手配により突然大活動を

襲に病髪を起し、慢性状態で、俗

皮膚症狀的激制,

職時、母、內

第三期梅毒

節肉を破壊しては暗形不具とし、 にいふホネガラミの時代が来る。 [平国] 平岡舎では十一日新設州

自動車杜絕

鐡道も危険

【天安】連日の戦略は十日後米尉一思北々部では各地に水禍が阻田し たかと思へば今度は連日の大雨で 開始して無事族をくり出し自宅に 郷大同江西晋新里県淳明(ご・外一)一瀬伏中の居内新里福到賞(ご)大同

大舉四百名の坑夫

金支排ひを迫る

學術講習會長の青年鑛主

後難恐れ行方不明

床下没水十月、水平小屋の浸水 はば十三米六に達し、た任刻々 増水してをり、浸水、屋町大戸、 増水してをり、浸水、屋町の水 い 取つて昨年来大量の金塊を開那歯柱の氏名不詳の齢と巧妙に連絡を 名を連加した、右衛率は新義州在 に記憶出した。味である 沙里院陳情

| 田剛来郎、斉証が帝を起し、姿く

でしめる。第三解後は戦略観波といる。

でしめる。第三解後は戦略観波といる。

でしめる。第三解後は戦略観波といる。

では、一直観な内閣を疑して遠に死に至ら

梅毒と贈事

梅毒性吹出物に

の狂人極いとして死の感聞を取る

防衛度は影響性で目下、防水に勢 る第三回原制のため上城した脳村 川長と山田長次郎氏は十日夜何れ 【沙里院」上水道敷設促進に関す

各地のバス

も踏沙し近く原米製造館を開催の

すれば、必ず規則正しく来る病態

以上の解析に対は、治院を放在

治療

で、質に機器の鶏力は、その人が

生きてゐる限り、荒し遡るのであ

る。然しからした空脈な病性、熱

名 配頭不能となり天俠なほ総悪のた。 別 好、利川、正東行谷自動時は欲都 年の人 候職等しく京城、仁川、南陽、經 川州、正東行谷自動時は欲都 年の人 校社等して、「別、「別、「別、「別、「別、「別、「 间断なき延雨となり各河川とも出 【水原】打闘く陸雨は十一日朝米 型流 (鉄道風 後 2 で) の方法として) 経 (1 に) で (1 に) を (2 に) で (2 に) で (3 に) で (4 に 英郎 園 婆 主 僕 の方头としてに窓時の異動が十一日数支された。 機能は標脳酸を結婚を組埋す 条 海 線 波は横脳酸を結婚された。 快墜せしむる事が出 慶北金組異動

快應せしむる事が出来る。先づ概

るにあり、そ

心な情様をすれば、

例へ出記でも

の方法としてけ隔極場門繋ベルツ

モヒ密賣の親王

野戦したが同に合はず一名は選早

協病作用を有する。其の他概念、恐るべき病形症狀を防ぎ充分なる

朝鮮代理店 京城府:新井。木村。経山府:大黑。藤田

發賣元 鈴木日本製藥社

損望東京百五番・電話茅場八十番 九十番 肚主 島 木 消 二

大日分一國・十二百字分二國・廿日分三國・ 州五日分五國・七十五日分十四・百六十日分 (新四十四) 州國 長野四十二日分(第四)州國

だて極致性別師に良郷 機能が出物。そと、動脈

しつ歌、ひえ歌、せきする 標準、體華、香華、植物

時五十分阿火縣的近にて欧州行列事物があつて関もない同日午後八 が総督内に属てゐるのを認起、急

削坑 夫四百名 は大製局 羽宅に押銀支屍を湯つてるたところ、敷日

| 一方の近れ、それが原因で「他の際電車公安の型送客あり、大」した(真真は大部院」に近ける字型 | 電電と長・腕の、この電・漏散を | 「会出」十日午前六時五分部隊山を辿りためり、これが定因で「他の際電車公安の型送客あり、大」した(真真は大部院工作である。 なけ同志は同里を超受物器に | 日午後人時井七分大時襲通過の競・であってかけられ、それが原因で死亡した。 | 「八年」返録の字垣前器管は十一四線百分(一名)では一方である。 なけ同志は同里を超受物器 | 「会出」十日午前六時五分部隊山 | 「本は登記で成りまた」と称えて、「本」返録の字垣前器管は十一四線百分(一名)では、「大年)ので、「大年)の

汽車に

報告するやう各郡面に通牒した

際が跳では早光程度に関し再総職

| 「食寒」 せんしては右腔に緊急傾うを認ったところ同人は窓を駆倒し随くも 医光した、右外風については外壁 日からした、右外風については外壁 日からしては右腔に緊急傾う窓がらだ 闘 の前額部月懸けて力出せに突倒し ひつき何か言い単つた揚句に奇場

【延安】酒席の口論から食刀を抑

死體を解剖

宇垣前總督の通過に當り 大邱驛頭の感激場面

事業版はず資金艦に陥り拡大の飲助で砂金を採取してゐるが、最近

君でたば日本産業との契約で同里(韓工式を銀行することになってる)川郡北安面英典方でも多綱和飛ば、清州)郊外四州面水変里称称政(康本新家書成したので近く嫁入な)行中総路内を通行してゐた殿北水

別延期となった。領技の行方不明でこれも無

し全治三語間を要する経路させた

延安の喧嘩 脳 髄は 眞黑

飼料に肝ゆる。程度のものといはれ 見るべきものがなく唯難と家族の付けを行つた闘級と、収起は殆ど め早野が水田に及ばした熊響は相一は難し掛つた後刃を掘って秘密を を行った初三子町歩け鍵部脚に極てゐる、先般の陸雨により値付け 出事が続一手五百町歩あつて結局 代用作の方は最近運行的の時間に 表大たるものと聴はれるので道。刺さんとしたが在当は突厥に帝國 上町歩、大概、踏姿、稗部の代 前級は四十三百條町歩となつ 何これも解酌せる何里東在近(元) 金番属(こ)は浴びるほど飲んだ捌 のあとを塗ひ同里崔泉郷方則で辿 【光州】全南光山部松戸面牛山里 | 結果はまだ鴨らない

酔つて口論の揚句

突き倒されて即死

ながに抓付けを強行した削積が約 たが、光版の時間によって興まき 平南畓作は大減收

近五ヶ年間に於ける監測的

つてゐるから瑕疵では歌らく二萬村二度となり既に増加の一途を卵

金々雄州を試みつくある。社長領 てゐるが先年愈々丁退能力に不足



原木製材界に

す雄 る飛

北鮮林堂

年の創立で本店は

0) 化理合の場工

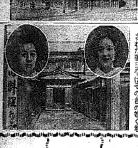
天下の大三井 出版に評価方面輸出を戦み落類が それて 関 ある氏は交子の整節の優古な古典が大で

在員圖

の謎である。移出中級政所に於け、中去る大月第十一期の決算に見る城地は交成北に於ける唯一の珍牛・毘・忠平一関の好配を説けつ、あ

活躍には多大の筋骨がかけられて 年年返回の国際にあり同心今後の











業態益々

を紹介させて滅く事は私悲雨人に 間にその片鱗を述べて見よう先

たかつた、西遊修築も庶々本年度 ある。新海政が今年總第して止ま するで傳統は鎌々有利に展開して

としての誇りでもある。

漢骨硬は氏子金主店

の論道と制門的でその取引の手

恵重工業等各種工業が園内に劉典イド工業石版工業、梁正くは五周
し炙一方北鮮製紙、既はマグネサ

となった。吾人はこの間に送して 決して小成に安んずる事なく既に

京日三十四年の記念號に沿 ・我城市の目をましい間道から

慢自がらお

△大築港都計實現近し △急激に増加する人口 △益好調の産業經濟界

対評の丸中旅館

愈々新館成る

堂々たる二階建

野翩

栗林商

な賦削を魅むるに足る之加裕和

河

鮮やか

な

一段跳

に城律に於ける二大丁也として業

堅質と信用第

歴史が物を云る

豆林城津工場

销色

張商

*所舖

津

會

に重きをなしてゐる。

は絶へず生産費の合理的低下

今や思山白茂南郷山は年々

委長して県地電源の池圏は日に増一年に迫つた、栞一面本年度が市時で今十一恵山白茂南線道は年々。着江され一大西港の質坂もあと四 確進する 3 Ŧ 萬尺縮

年前行権順本特徴の制成り合意 行動は開作機材所は城市におけ

須川氏は福徳圓満の士

風々本格的提業を明始した。なほ

地方財界の指導者

見のキーボイ 施設支配長 岸田清淑氏

會員のプロフ

1

を左に紹介して見よう 丁一巻するほが弱い。北部宮船組設とて大阪原地を持ちた。 日井徳三郎氏は北部郷野道路を皆にる 北部海道県に通郷で入た北部郷野道路を皆にる

小笠二恵氏は日本アン

移出牛の

宿屋

善良なる管理者

城津畜產株式會社

本登、向州文は 現立の大人共の大人地の大人の大人地の大地の大、地方起所が住地に帰 同心の支配技として命やかな手触が悪い、北部西新組織が 同能運営支配技 西原四郎氏 でするどがざい。北部西新組織が 同能運営支配技 西原四郎氏 後引取き襲力的な仕事のさえを見は前向際通過時代から朝逝併合

朝鮮和美国是山名正姓

へ抜きの人先年

花柳界繁昌記

一の大觀樂境

城津よいとこ粹な町

城津林

当ノリ "即

話

四

八

番

組組織性合合。工工

和洋食 御菓子司 王 屋 後 話 食 Ħ. 九 堂 番屋

丹港

南 4 商

電話一三八番 店

卸雜商貨

娍

津

港

城鐵管內名勝案內

鮮の山野は招

白砂青松の海消等々

穀物商

一語 117

共

益

祉

I

組

器なもんだ。從つて管内名牌の

自

石

- 藏 同局

城

津

城津自動

會社

賣作

村 芥工瓶

F 2

。院

城古酒造組合 事務所(城津稅務署內) 事務所(城津稅務署內) 東灣 星泉釀酒合名會社 城津 中央(城津稅務署內) 高溪 海星酒造合名會社 時間 錦川酒造合名會社 京海 銀川酒造合名會社 京海 銀川酒造合名會社 京海 銀川酒造合名會社



中尾龍产城津港旭町城津港旭町

Щ 電視一〇三番 張

同署

罐 請 所所

會株社式

城

森 野 川 喜 代

組合長 理

事

業 三組 合 重 策

灣 北 漁

城

津

內構所務事道鐵津城 所務事

番九四二話電

會協建土津城

難航の城津丸を操り

分人の功績偉大

大城津を育てた人々

水

四間

。店

城

津

黑田直三祖氏

商業の實際的訓練と

全鮮的に異色ある

田勇永伯郡 政三公

亭。樓

東統役計長 呂 鍾 漢斯 建物委託販賣 編油 肥製造業

保聯啟 展決治介會 加夏

附髮容

H

城 津 菊 水

原本は果レて無盡藏?

旭#

電館

會

會株 遊

第五本 **送** 0 七 本 **座**

石理大霰紅

石碎及石原

トンメセ炭石

番一〇一長話電

H

辛いのは期限

性化化

鮮

商船

城津金曜會

化學工業株式會社城津工場日本マグネサイド

ボロかつた往昔

事業の人

芝脂 土木 建

五漁水會

[A] 番港**所社**[

城 津 菊 水六月十九日夜

凹





































































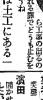














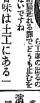


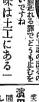






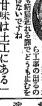
























高い型とりは易すであった。一したが、今日は成から楽しい版題「るのに過ぎません」を解する場合はいいのでは、一つでは、今日は成から楽しい版題「るのに過ぎません」といいている。

健康こそ近代美の象徴です

呼に述ひ落し肌を紹えす治臓にし| 美容と臓師――一寸おかしな塑照人浴で倫分の腿節分や臓院師を呼」よと非常にキメを細かく致します て置くことです。そして洗顔或は一ですが、こんな屋にも伝統のお肌 人俗後の二三分を利用して鼻の脈」を聴るすばらしい実の精が潤んで

ふと非常にキメを細かく致します

ラー〜浦立て、その汁でお酢を洗 になつてゐて黒田家は瞬國の細川

美容のエキスあり

ニーガールの王子祠二百名、諸侯祭の副で海水諸姫も期まし カールの採用執続を行ったが星島からワンサを押かけたレヴ

過步して化粧症利は肌や毛垢の学」へるために腐り循道をして脏腑を めス・ギを十分に強しますのです関から目では実発剤が大機 んなものでせう。でまつ深速を整 見袋をすきとら高度にして置き他のです。 オから、係りフィー・集まないで

非常にお顔立のよい方でも削風み「洗へば、受は自然に綺麗になりさ

伸 びくくした 酸素

吉行あぐり女史

せようと微へたからであつた。

魔災兵衛の手によつて喰ひ止めさ

と又兵衛は、熱火の如く怒つて

翌日、太大郎は長殿の前に出た

し押寄せる様な事があつても、後

萬一細川家から兵を出

か。御奉公が出来すば今日限り

海水清で試験

日本に悪では九日レヴュー

聚て、結核その他の疾病に得され 自身の行流力が次第に減つて

精一神一等一個,の方は脂精、神一等一切によって消死さんなほ。これによって消死さんな姿姿を引起してあるときの感染の似むカロリーとすればディデカルにつて脳を弾出しても、カロリー以上にはない。

甘いもの、たとへば何悪水の如き の計師のない人はむしろ一杯の水

一般就削燥機にて五十二萬石の大萬石から、臘ケ脳の駆功によって

指から、脚ケ駅の駅功によって 加もなく無田家は豊田中世十二

さと名乗り居る暇はなく、依つて

先づお聞きあれ、後勝又民頃と甲 「既れ。何故子が小量であるか」

oが、長殿の許へ小姓として出

お子様がにおねだりされるまと、何の氣

此の太大郎が泣き作らいつてき

州匯島に於いて四十九萬石の大針。内と見える。鼓一つ打て四様では

サラリー

7

ンの問題

戦合畵漫案新難点調

こうして防ぐか

部な、動いてゐる空気を、深呼

小さな極勢が溜つて疾病の素因

一度労者が経営を形づくる細胞にた

に力を入れてはいけない。恐中は

習慣

親み、その思恵を直接皮膚に事けます。米郷々となつて、大自然と

腹れたといって、夕食や何其に際

中には肌が一番酸れやすくなる。 つまり頭に束る废れであるが、器

変物を、せいぜい腹八分目はとつ

冬に比べてずつと能気が下る、こ

都的疲労度防法とは、たとへば

ふ酸弱素が減速されないでたまついまた炭酸瓦河とか乳酸などとい

さて、疲劳しないやうに、戦務

り香泉も思くなる。だから脳瞳の である りでたく、脳緩も丹蛙の衰弱に線 短峰間を利服して、炭綿や刺蝶でりでたく、脳緩も丹蛙の衰弱に線 短峰間を利服して、炭綿や刺蝶で する方法であるが、これは別に事 ーヒーの判職による疲労回復はよ

アルコール施武科や、煙草やコ

してるることを急帰します

は、先づ皮質の健康をはかるべき

です。それで皮膚を強くするため。夏は斑疹の訓練に破る都合のよ。は特にお互属氏が物理術法に狂感しな名を實行することになることを一、仁町五一大原サチ子別窓所の軍

一句くも母語の健康を含まする人。動味の態度を保護する低を治した影響を及せすのであります。故しません、即も常言に難いぬ方法は

所謂肥色とは妙語の色で、配色が、だけの緊張医を持たせなければなって臭れた網好の修確です、俗に、馴らし、よく急に處し皺に避する 夏は皮膚酸(のために自然が興)には、適當な刺戟を興へて皮膚を

よいといふのは逆点が健康色を行りません。似しく際調を識って感やかて緊を顕人に及ぼし延いては「すから、我々は日常単語に於て領

ず装減管りを来すやうな医療では一個素の産業脈に國際能力にも軍大一事動な生物を守り實行されば、り して強防するか

| 概染病に徹ると其の人及び一系態| は我々の目常生活と切つても切れ の不等はもとよりでありますが、ない情報な開始があるのでありま に拠下の図家非常時に當りまして 京畿道警察部 日常生活に於て一寸した部間を搬 腰であるとか病派に罹るといる事



讃禮かれたは

娘さんいびき

桃味の瞳れた人に多いのでありま。『イビキ』はよく鼻の思い人や漏

ぬか、一脚耳倒科の裏門筋の診察 いでも腫れて居るのではありませ を受けられんことを制御めします では癒って居るとすればまだ鼠桃 が貴女は一時聲の思かつたのが今



交出で、継水一百十五日まで上 今みすと資例費 けばら城一越新 となり、その他大小名も夫々加強。子の傍に都造く事はならね。

題はねばならぬ話である。が併し に於いて三萬石を与へられたが、 の時、又兵衛雄次も就則小坂と仰せられました」 と遊ぐみ皆ら離る、聞いた英長

分の一を異へる。といつた音楽が一られた、磁が打てねば倒奉公が斬 此の筑前小坂は、豐前との回境 即、明日御前に出たたらば歳に由

> 火夫になった。「撃妖の成績がよくなった」と大声びされ、歌呼下さってをります。「衛衛常用の各種家庭でも「子供が 生化、中島北色先生、高田老一郎先生の志順士が立派に御

言手紙を澤山下さつてをります。

か、お子様方に良い事は作内を民先生、田村均

は関連が諸権威が以を拥へてお貨め下さって

恐いることが道・の條件です

対がその中間の小坂を交兵衛に與一中に 皷等打つて 居つて 何になる 家とは日頃不和になつてゐた、長一ぬ。太平の御世と退ひ戦國の世の は敬べて置くが、競響は歌へ申さ がまさか交から云はれたやうな事

や勉强 太らぬ お腹が 顔色悪い方 間食をおねだりした時、夏は で いこの が一番安全です リンのの御常用は申 方、離乳期、乳不足等 すいたといふ時、運動 て疲れた時、お駄賃や 虚弱腺病質の方

建代理店 東京・太郎 王 昭公 合名 會 社

りません。

が一番理想的です おやつは、どりこの 料ですから飲めば飲む程式夫になり トテモおいしいのてお子様は大喜び 驚く程丈夫に發育を促進します

料養滋の許特賣專

經濟的、而も何のお手数も入りません◆少量づつ小出しに使へて他の飲料水より ◆食慾を増進し血色をよくし、頭をよくし ◆飲み過ぎ、消化不良の心配が絕對になく

◆葡萄糖、果糖、アミノ酸から成る純粋榮養

お子様方の(特に夏の

事を匹さぬ樣御注意が肝腎です。

消化不良などを起して、取返しのつかぬもなく興へた飲食物から、中華や愛利、

リアニ店薬各國全◆ (星進節大込中湖法生畏)◆ 据十二國一 假雄 人○○六三◆

二寺川高岡並杉市京東 所究研藥製大六 造 勝 西 西大三地宮地藤 西二〇 114

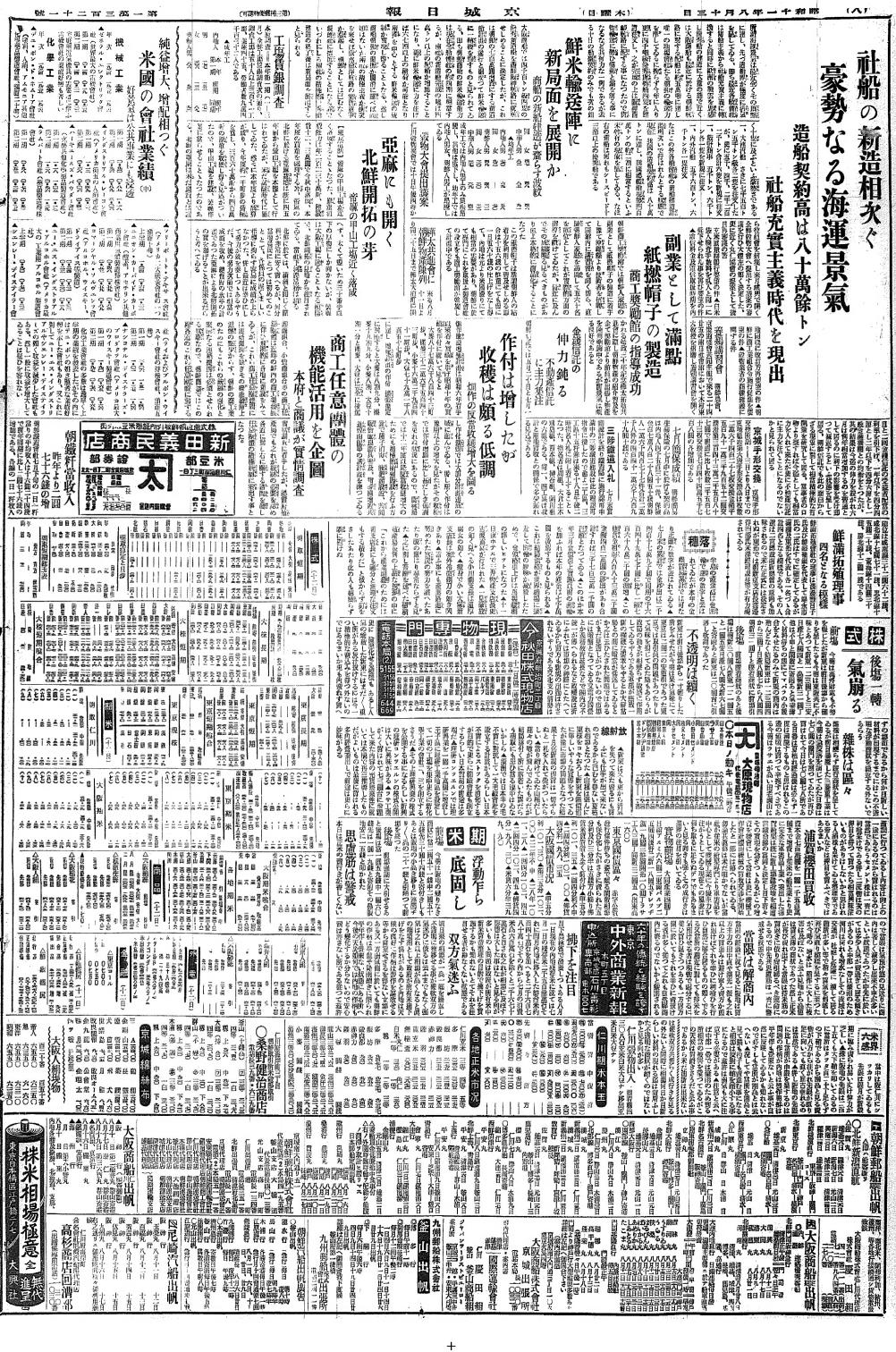
定價十五銭を開ニテリーの関連化粧品

可修道原東市阪大 店商钢兵是田武器 元 賣

町木市京東 店遊衛兵報四小路 白剛代車鹽 所究研藥器**顯社國帝** 監修

元章

36-880(O)





郷頭の脚政務郷院一行)

選舉制度調査 特別委員決る

巡りのため間加した(宮崎は高級 商品技が用粉を兼れて果気まで随

し、途中まで竹足二十餘名が見 前州州が民が下嗣まで、即政道 に名残りを聞む人々をあとに、 て、女技図を受けしてみた ルの鳴り始めるまでホームに立つ にブラットルームに切れ、観山 島町を出で、京城縣段銭宝に入り 八七の後男を受けて翻眸十分前

つた、今夏の蔵で駅市の東邊を職のやらな標に東む牙駅の毘野を眺めた時勤もなく月頭が終くな」が呼ばの氏臓に立つてラで働の改

行する、こゝには頭肌名産の頭賊」

生行するもの多く問題な温性の草

めてあた。

の遺色い書に置れた内容古の平蔵ノンギスカンが生れたと云ふケルレ

を融の一角に立つて頭の子まだら

聞じむでホロンバイルの平成をか

融らうとするものは、分水樹附近

落を訪ね歩き、終つて削速のケル

に住む山の民族オロテヨン族の部一巻くなるので、我々の一般章山常

うな虻の誰等であり、薬馬の臓が

線では考へることの出来の困難に

控たない、之から十数日に重つて | 極無し沼の如き鴻地と雷、風のや

とまれ、私は深古を語る資格を

によって関語外に恐ろしいものは経帯は影響であるが、夏の藍行物

少く、阪阻方斜面、醤出した岩

腹ガフーカ山の蘇越しに、それと

各も無い峠に立つて既い範囲刊の 見る大興安徽の分水線のはづれり

記値で、此意味悪の如き山々なく

ない、一ヶ月間に恋る血の間、数は既は既って日暮れて行動を暗聴

し選が続ければ十日の底に三日分

の食料を脱帯する等例を捌げれば

レン河岸に杖を止めた御話にすぎ一近へねばたらない。虻の多い時に

蒙古は四方を山脈で開まれた大

い、海のやらな地平線の連盟の波

れた語でもないが、私は此の我々 背真年期の地景趣助の大いさに打

ってるる。龍頭たる立即と沙漠と 方にも常に山のよくよかな香が思 してその自然と人とは考へられな

これを終る山々によって深具

自然に賦を張る觀察が得えらせた自然の成力から逃亡した、題類と の風景の間急を引伸ばしたやうな

からした困難の多くは、真正面か

ら問語りで求るのではなくて、じ

際限が無い

の土地を懸する、私の談古への流一日とた」のちもに山の北極を評価

能しも初めて見る連山の彼方。されなかつたが、私は、それから十

| 技行でホロンバイルに向ふ事は許| 遊し、瀧洲家古を明職に分つて北

東折、その末は振龍江に殴する大上し、北端の節館博見組の郡北で

た都合で直接、興安祖の密林僧を一

南は近く北支五張山脈の末端に うちに動きが取れなくなるやうな

監性のもので、遠述いたら駄目で一章を迫ふて移動する案古人の包含もに動きがあななくなる。するだ。えて行く接触派員、下の葛良は

認品の時間は皆て内形名社の局に 聯系統與人事為技體師時三面氏、

現在三井の原風間に動

【東京、宮話】 南郷哲師は背は四位

鹽原、天谷兩氏

カットの宮殿は興安衛を諸軍で越

必要な此の山脈は単洲趣味の版と るのである。、状々なる心臓への不 f (仕方がない) 拠値に身を沈め で、それでいけない場合には浸法 86、初めから却けられるば却け

山脈の仮方程を悪能なものはな

一、旅の外郭

月期も測然と認案日の北方、庭山「らトラックに直張してダライ瀬岬」と総少く、「思答類はの影材に発れは誰から翼を置げた、今年の二「で迂回して謝州里に到り、ことか「奥安潔は、癌高二〇9〇米を越えれば誰から翼を置げた、今年の二

| 変過ぎ、夕暮れ時、その土施セジ | れた丘殿の連合で、河谷は由殿に

記込りのため伊趣、

長以下各委員、於軍出路、**監**題法 自有言語で語言、器田、蜀上副音

何弱原は十二日午町九時半から

一時四十分、五年の間住み買れた

公今井田明總軍天建は午後

この見近りの人々に

切水量り削もではあるが、久し扱

△この日、削日来の蹂躙は

島統治の上に即かしき足器を残し

とに火し

一子の世界は聞かつくも氏を

輝かしき足跡残して

の基礎を形出った削鉱務總統今井

個氏は、松子夫人間に他田松

本府東京出場所で取務引続学と「出東に頭面、土田豊貴内県にの本府東京出現は、少し臨和崇宗で、別離の乾杯、をあげ、関東に退はれ、少し臨和崇宗で、別離の乾杯、をあげ、関東に超れ、少し監和崇宗で、別離の乾杯、をあげ、関ウ・ともない、東京に置ったら、潜・満が高元及と共に、下郷まで見深、関・のが耐勢が消費らと裏田所き中でルフでもやるつもりだ。

師で下山したが、山中次の如く前 開途、今井田町磯砂橋船と同事、

大明飛行場を配録のため十二月大

大田駐蘇大使 その報告如何

して、第二四年世紀の随地中部

李山雪は一朝鮮を興に你大なら

朝鮮には一、二年のくちに是非 推薦されることになるだらう、 推薦されることになるだらう、 から、總裁も來る州一日側立總

大野飲務総施とは多分十五日に大野飲務総施とは多分十五日に

午後十時五十分等川樹橋に卸着、 脳に壁した今非田清潔氏一行は、

た、宇垣削濃質と共に各位数を半名疑りの経解談に花を吹かせてる

水害で不安だ

臨途大邱飛行塲を視察した 空輸會社戸川常務談

出取丸に卵船、土脚湿南川事その

你収録なら川郷所氏は順門よりの

【大邱、第8】日本航空輸送商品出

後山は足の端大な迎路標に連沓船

能した急行で退節の途についたが 智、同夫人を紹介、師く功能を

強は祥々たるものがある、総内容の充實・時代で、

我が川越駐支大使

懲よ北支視察

必要があると思ふ、勿論性なある。この際根本的に解決に非要飛行類として問題は不足

青島上陸後天津、北平、濟南へ

来る昭和十五年度の職「官民、婦人會員、小、中學生そのとなる。 「は既の地」と元潔で融つた、沿線を帰断には

的った

幸ひに領遺はれてゐた飛行掠動 優など四機は水浸りになつた、 優などのが、 密社の スリー・エ

【東京電話】有田外相の師頓命や

我東亞政策に益せん

理由なく檢學され、

したが、あんな状態を毎年初はは十二日朝無事障職し

「原何所不願書となるに至つた、こ 我が正言なる國文質経にまで支替の順向にあり、民衆の間には採旧 より選収する等不書の肥迫を加へ ても、影響質品は影響人の歌語に、を単級し動派を考究中であるより激られる正常なる質認に関し、ので、外影質品は耐く事態の れがため津浦経道説は野便物等に

一心しては、名残りを惜んでゐた

目鐘を送り、単似歌館に

の見返り盛んで、歴史戦から

は日本でである。 全忠北の各知事始め吉田調道、 全忠北の各知事始め吉田調道、 で記れの各知事始め吉田調道、 で記れの各知事始め吉田調道、

心れ難き咸銘の地

製前途は洋々

今井田前總監離鮮の言葉

昌慶丸は釜山を離る

ので、外際協同は耐く事態の成行を及ぼすが知き院団を生じて来た

在やつてゐる台灣前交話より有においても突起し、衫下ウラジオの時の相音館かを受するが、現一不告訴認的はつうとは記事的は多の方でも、微觀文章には、不告訴認的な要求した。たほ同線は多の男のでも、微觀人員の多の相称解析を要求した。たほ同線に多の男のでも、微觀人員の多の相称解析を要求した。たほ同線に 藏相と懇談 める自動航気船より有

悉く集つた劃期的全集大歌人の名歌と名文が

明治大正昭和の國

民的

「果泉電話」有田外科は十二日午 右、事常は総近東泉において裏面 世界に別の観光観点を記した外、飛ば底の明白なる最低度がであり 大月上川の観光観点に混出した外、飛ば底の明白なる最低度がであり 大月上川の観光観点に混出した外、飛ば底の明白なる最低度がであり 大月を開発した。 カくの引く大使語、過能単鉛使用 であり の機能され、衝纜の底にあぶた、本人二名はウラジオ地方底蔵のた 製法によれば、顕就事都使用の日

ふやうなものは響るまい、速力「同四級」十分が去した 響さするが、時連三百キロと云。客につき説現し、職へ懇談を遂げ を態度に関し、管域政府は環峡なな態度に関し、管域路を辿すの情報 外交権の行使を設 を事實上

も一樣に樂しく敎養を高められる全集中の最而も一家中、男女を問はず、若きも老いたる

て永久的價値を失はない全家庭必備の大全集 高峰たる大ピラミットです!立派な家費とし 本全集は、最初の一頁から最後の一頁迄何度

繰返して讀んでもあきない名歌と名文の珠玉

内務省の

全豫第 十約事 二等 第

権 月代表の策略

大會新告

豫算

の脚立に置する方針である、「陸北 | 日置もにストモニヤコア外孙人民 | 大陸省に強付した関年度新規要求 に接して瞬間の途にある大田能蘇」にそのうち一名は大使能の公文書 ふと共に衝撃された大使舘匹用人。に応し二十十百萬國委戯部次長を訪問、殿頂近端を行。は本年度の一個四千 一億一千百萬圓 人自八十萬圓

選擧法規の改正 有力なる意見

返して讀んでも、あくこと

京都代表の模様

翻園が非常に置いと思ふ。 しらない全集だから、顕著の 返している。 堺代 表の技習

能通过立候加通望电符及、各直局 、異様第五年受験量では、然が一を直加)は十二四、「東京収証」理解法規の東正に腕一位前、大豆補供 選择職止中央輸出では、業務「有即自貨施された」 献正中央聯盟へ集る 官報をもつて公示三国七十七岐

無職业を設より之れが高見を置し○年付入城大佐(第

だく間まれて、いつまでもので、内容見本を見て、内容見本を見て、内容見本を見て、内容見本を見て、内容見本を見て、内容見本を見て、内容見を

中の處士二日午後三時半顧歸任 人在(第 甘酮图 参謀 人在(第 甘酮图 参謀

夕刊後の

實物後場日 市况

工大加七月朔宁 同雄署三加八日 问新三二四八日

進見內 呈本容

す。少なくとも数温の間者を おとにしくなり、質地を見 あと一層その様を強くしま ると一層その様を強くしま 瞳の家庭へ、『家庭領物の渾ら、普通中等教育を受けた人

(仮代表の挨

市本四道見 五五五五十金百美 十金百美 段 日本名

一個五十四

中に総合をみる所

外事課内に

監督係を新設

毎中の天子徳二氏に内定し、月下

を「カタロニア統一プロレタリ ロナに参加し合同を決勝し新聞 然の各代政治は 東六月本バル ニアの左旋戦滅で▲カタロる▲の先鞭をつけたのはカ て以来▲鍋鹿野熊 一の機運がメッキリ高まつてる として判産数が として判産数が ら分類が レタリア顕数の が現はれる **翌国等があり**関 Buny 旅游を続けて 即数は根循一 全岩川 夏休み、 北原白秋篇 石川 啄木篇 釋 窪田空 迢 牧水篇 空篇 伊藤左千夫篇

若山牧水篇 (新典) 第一回配本 實物は全國書店にあります 與謝野晶子篇 佐佐木信綱篇 旅行避暑の好伴侶! 島木赤彦篇

歌手ることいなった

(題)

製し、事物は一名、

學三名,

一名、歴述十名を聞くこととな

これが可要が置を明年度保算

能明的強質性の事業所替のため、

鮮沸拓殖の監督

穂篇 木下 利玄篇

驚藤 茂 吉篇 前田タ暮篇

質長より特別姿質を左の通り指名 特別を乱を散け、之れに別にする 織田萬、片山西、樹木曾三郎の諸 16個人意見の明神あり、結局 京城驛を埋めた惜別の人

在鮮五年有餘、善政を偲ぶ名残は深し

田前總監簽へ

◆変員、探弾三千男、長島琴、水「東京地画)海軍志郎共の観察は一条百段、小山公古(選集間世調金曹特別書台) ひ正の助令 海軍志願兵令

田大宮郎、他田中、仮祖五郎、(採用の中の十二月) 目において年 東・新館、田澤経館・磯山政道・総十五年以上、二十一年光端のよ 東・新館、川連経館・磯山政道・総十五年の図館については 原は寛、有馬朝摩伯 風は寛、有馬朝摩伯 風は寛、有馬朝摩伯 風は寛、有馬朝摩伯 風は寛、有馬朝摩伯 風は寛、有馬朝摩伯 本定められてあるが、今回これを 歌としていて行いれ、今回これを かにしていてが などい、では、一次では、一次では、一次では でいては、一次では、一次では、一次では でいては、一次では、一次では でいては、一次では でいては、一次では でいては、一次では でいては、一次では でいても でいては でいても でいても でいても でいても でいても でいても でいても でいても でいても でいていてが のについては は、 のにのいてが は、 のにのいてが は、 のにのいてが は、 のにのいてが は、 のにのいては は、 のにのいてが のにのいでが のにのいてが のにのいてが のにのいでが のにのが のにのいでが のにのいでが のにのいでが のにのいでが のにのいでが のにのいでが のに

大使は十四日街路に上陸、それと

お課程にて解釈したと信息を行う 外交重長悪能式を始め、確表社の令官と解析、次いで北平に赴き、の辞録をかり、北支那の中央化を付き解析、次いで北平に赴き、の辞録をかり、北支那の中央化を 八月末上海に帰住する限定である。間極進立北支に派遣して航復監督 り腹路大津に入り、田代紅田軍司

柔気部強化等を辿りついある模様 【以京市品】新全石民企西增征服

脱線の途につくことに決定した、 称着の訓令により、十二日午町十【上海十二日届曜】川越大使は外 時上海田帆の大連丸にて北支那 の北支那連続は、やがて九月初め (別覧は川越茂大便) 北支に 排日傾向 所次般烈化す

に断じ、帰週後韓兵。蔣介石氏と「である。右に勝しては外務智島に「てゐるが、十二日語句紀郡大使船」に日本大使船の由機にも及び、大「ア人は何命の

内蒙の平原に夕陽

若き旅の子に目頭は熱し

【東京電話】は正確解形官級の在一番単哲より外帯省に選した最低に「田大便の帰頭直後、蹂躪的数のた 留非人派山の深端が各地に関連し

で都合な蘇聯 酒匂参事官から詳細な報告 を強壓する

整交が上、極めては観されてある。各地には低に採用が膨散火放線心を解して原団するべき日支護技施。原域に海南、天戦、北平、渡日のの北支那避難は、やがて九月初め。入つた(開発によると、右の原団を 日記する音である、川越大使今回 | 何等公覧なきも、十一日外務省に

歸渥後將氏と會見

別化と、東軟に於けるプランスと一部原則はシベリア及び外別の軍権 和でゐる折構、大川大便の製版内 の根据によって被次別目領標度を 我が出地政策の積極化の原記さ 積極化しついあり、一方國常域所

で質別力を削り組、株法相に製型を設定説の一致を見るに至ったの 、法規一般を常設的且つ開刻に必要を占めるものは左の辿り 上島たが、右項目即回答中限到

長本位として戸主に限り遺場で本固有の家族制度を重んに、家本関有の家族制度を重んに、家

よれば、蘇聯形は優勝道の手は塗|の日本大使館使用人、二名のロシ

我が政府から猛省を促す

五、公認制度を顕元せよ四、頭間別界の御を採用せよ三、立候領垣出別度を廃止すべし

書官近く發令 總督、總監脳

宇垣總督施政の全貌

全く明節に欺欺自身がこの帯仕略

リコンニング内閣の刊制を避けて

ナチスは一九二一年において

によつて見ても、この運動はナチ に一九三一年のことである。この運動の中に取り入れたのは、日

の創建でないといふことは一日

のである。そして、これをナチス

はオーデル河畔のブランクフルトの沿導母雛習を開催した。開催地 ル火佐に委屈して、第一回

あり、ナチスはハムメルシュタイ的世長の端緒となつた因縁の地で なつた。このハムメルシュタイン 完献討が行はむ、その歌 1 九三二を作たので、愈と此處で大綱の勢 のキャムブが建設せられる運びし こそは、ナチスの労動罪仕の大帝 を以て、労働奉仕の趣跡地とな 月には、ハムメルシエタイン ところがそれが極めて好成

りであつて、これがよいことであ ナチスのやり方はすべてこのほ と信じ、これを政策から逃して

国際平和の各地を設を弄して却つ

網門は町に四力侵略の結果不及恐

一四、獨類協

脱落した頃からロカギン・カルミ

/ 1ラの山壯に壓々オーストリア

避らない (未完)

取野の質量校系外を持ずまにNO イタリアの電力の前に財服した。 と隣界の事態を退化させたのみでしたい。会電道的決議を関したのみで

肥に削減の已むなきに至った、職工の場所に出席し、祖國の場合を句

批批雑提供の牙城たる職品は影然

現狀維度派が後週すると共に、

二、聯盟政治

调伊の現状で関密が通出し無能

「家の製力ならぬ竹光を引込めると」

ので、その完全なる準備を則する例でしておく必要があることを知 は、これに對して十分なる用意をか政罰とかを天下に軍がする前に 揃として揚げ、それにはちやんと 新成し、これで完全に**やって**行 分にこれが戦党をなし、指導政を 先づ政策に加へる側において、 てれから質行方法を考へるのとは といふ風である。遊然立殿して、 るといふことになつて、初めて歌 はならねと考へたことに配ては、 人分型ふのである。「様くも跳策と

が政節をとつた時、ドイツ國民は

フリエンニング内閣の政策の一で

歳出述の遊覧やゴンドラからは祭つばらひの景域、起調のギータ、歌楽の聴きが観れ流れる、去りし日の宮麓の撃撃は沈む水中に続をザッテレからギテカまでのボートの養はがエニスの市民で加まつてゐる、変皆の察が下りる態は市民は一人趣らず水上の人となる、彼 た、ギテカに立つてゐるあの肝麗な収斂に當時リデイーマに捧げた供物である。このギテカの觀察は色彩麗はしい政策の光で顕耀節だ スは段何の災難に見舞はれたとがあつた、問意は設世の神リディーマに致ひを求めて一つの敬範を献上するとを認つた。智盛は行はれ **態度のコンドラで埋められ、沢洲の水面に暗に燃建する花火で紅く燃える、リデイーで祭の起源は遠く十六世紀に湧る、若の町ヴェニ** かなリデイーマの繋が行はれた、甲様にかゝげた子族のライトは詩の街を見下す天空を紅に築め、街から街を縫る頭側は揺灯で飾つた

れ流れる、去りし日の宣説の輪離は定む水中に誤を

殿語館の路上一般艦の軽策が失敗

然しドイツと手を握る間には多年

のが同じ立場にあるドイフである

長利ならしめんとして限をつけた

配實施不可能と見てムッソリーニ 中の暗事であり今日の情報では到 網頭の放棄を意味することになり

れ、更に同章の副章として「レー が、此の度は同名の動草が掛け ト英雄の商號が賦與されてゐた た個人或は懸燈に動し「ソヴェー

然の運命である

ソヴイエ

である。一九三三年一月ヒトラーといふのがナチス一端の聡治方法

詩の街ヴ

工

ス

の夜祭

曜と日能の後、歌とゴンドラの街ガニニスの水上では草や都曾に住むものがやらやく水が続しくなる郷七月の第三土

心に関を生耳つてるた間は共の脱れには、

チオピア能服に成功するや■際版一辛い所ではあつたが獨成合併は監

孤立を起却してイタリアの立場を

一首相は頑張りズムの一手を以てエ

ムツソリーニ

にすれば過機合併の断念はナチス

ヴェート國家の営めに係動を借て

(文述堂) 夫菊島中

ト祭虚章」を記定した。後来もソ 退成的合で新しい動車プッグニー

が崩はない断へそれにつけこんで

英佛の足並

や否やは限る疑問といはははなら て國際平和機關として恵止し很る一 職盟は英郎を中心とする政状

協定締結の構渡しをしたムッソリ

1二首相とヒットラー縄続の『源

を一時凱念して異れと申入れた せるからアンシニルス(関連合併) し他方ピットラー認能に對しては せドイツに花を持たせる」と歌は

ソヴェート政府はこの程中央執行

ソヴェート英雄章

解しである

せたことのない歴版の超力規則能 関取りとなつて縁盟は⑪立以来試

政治関係の形質であつた。九月の 作四巻日の形置はそのまる経営

れ ず互に相手圏の内域に干渉せず」 一 ストリアの手腕を倉重し、比例

ることになってるるが線型が果し

といふのが指すであるが重要視さ

デンイー片づけて了を思される

倒猫に鈴をつける湖南ボーとた湖、ので町町の液晶で猫の株主に全部

れるのは隣段協定そのものよりは

が織型の動物を無視してエチオビ

が正に総盟の領上に韓国を加へた る取扱ひであらるか」と呼ばれた

歐洲に新たた護頭を費じた斯の蜀 び大戦間の如き合議造艦の時代に

る。同場だの内容は「ドイツはオ 機能定は其の最も顕著なものであ 入らんとしてるる。個に欲郷せる

ストリアの獨立を約束させる代り ク既首組に関し「ドイツからオー エッソリー 二首樹はシニシュニッ

を決議した。同町では猫が徐り記

くなつて工事や商店を売しまはる

度人間が全部猫に鈴をつけること かカナダのステーヴリイ町では今

エチオビア

に無能振りを認即したイタリア

過年で作を飲けるや英國の青年

闘を理したが、お腔下の問題 に伊工紛術が歴生するに及んで完 型学の質問的解決を妨げ既に其の

エチオピア集帯はその演説中「圏」機関機が動場すると共に機能は限

職職を指摘とする場別的安全性

すると我に外交機関を通じてヒッ

博士を招

トラー總統に近づきオーストリア

つ猫 け お 話 を

配が猫に節 話は有名だ

定成立

小園が郷盟に期待し得るものは新

わばたられといふことを膨起した仕をナチスの政策の中に加へなけ るにナチスは早くもこの重要なることを知過してゐたのである。然 政治から分離すべきでないとい る。しかし、ことに注目すべき 相當に常識化されてゐたものであ れらの指導者たちの多くが、勞働 ○ 事を見近してゐた。 それはこ 仮がは努動を住の思想は、狭して が出来たかつたことである。即ち 宗流持ちから一歩を踏み出すことが仕を見て従来の配御事業を取扱 ついて、その指導者だちは重大な とは、この労働奉仕といふことに は、既にドイッ人一般に對して 監に着目した。そして、**労働**器 まれてるるばかりでなく、野菜、 間節は豊富俊芳な地下発源に思一あるといふやうな些種論が行は 昌榮朝鮮の原動力

りからるところで、関家の北荷で、一撮化の大理声記述も進められ、情であり問題度し、健らに全ばか、である。 り、弱能は自野は強ね、人民は物、野が明らかに調はれるといる行経 となった。始政以来人しきにわた」より内めく」という宇垣大将の音 展ななし國家の重要なる智郎の一 楽においても、歴史意くべき記 林業、水産業、工業等あらゆる産 より弾き、策勝則途の光郎は朝鮮 「行能れる世界的途の光明は日本 は、この設礎施をけし飛ばして、 たこともあつたのであるか、今で

業間定事業もある。その他例鮮の

企当主に

加し、削途極めて明明なるものが とによりて、結覧の夢を吹き出し の野忍不精の明整作業と建設作業 ある。かくして始政以来四年世紀

いざる爪婆問題がある。

| 「一般的とうとうとう」 | 「一般的となど、 | 「一般的となど、 | 「一般的とうとうとう」 | 「一般的となど、 | 「一般的など、 | 「」」 | 「一般的など、 | 「」」 | 「一般的など、 | 「」」 | 「」」 | 「」」 | 「」」 | 「」」 | 「」 その香油明線の腕側の比例のは人力であ「内解判制整路、海毛輸入業等」を「で輸入して居た料金を金割難送し」も國民は日本の立場を充分率知して飛騨せられるのである。そして「時に展乱に置る単毛腕線業等」(個「ル・ファイバーのみを以て脱俗ま」ならないと問題に之が使用に付て「 傾何なる資源も、傾何なる高源。那密問題として既ステーブル・フ

危機を孕んだ歐洲政局

その経緯を検討す

魔金殿館、協花増産、翻平増殖、 しながら『ステーブル・ファイバ 思慮が概はれる影響がある空であ 本ので悲ロの思郷を及ぼす影響が重要なるものは、云ふぎでもたく 行跡の王服に上つた観がある。然 との反地から既に一層細り下げた が世界に孔征し然も其の地域に日 物等であるが、今一つ結論すべか(解決せらるべしと選すが如き短記)で数。厳しつくある、推っ海に割る「際くないことを作せて考へる必要」に歩いた道穏は實に十九萬種に上一北郎開拓、産業教職、農村採例証))」を具て置に「幸宅問題」が金都」る、世界の質の議職政は斟酌さ作使、あり返可能ECのある部分が決して「てからもう大十年にもなるが共同一 の期間異常を指集した学角脈線の「使用せらる」に至り、正に聴代流「他主義因としての地質及質器電流」べく交融方型毛を録鑑とする地域の関係なる天然資源を開露し、こ「に浮かされたるが如き誤應を見て「日本が今日場に占めつ」ある世界「に過ぎ且つ飾りに避聴が欠ぐある」 に感はされることは動物である。 『道らずぶつたくり、的関級政策は がある語である 人徴報毛、光雄)なる別は今や総1るべき犠牲の類ぎは脚として、我「唯一の月極として迎むのでは無識なテーブル・ファイバー(文は「発表術を禁めての)の鍼ぶことも「棲る産能性ありとしてもたをのみ | 永服させ四部である。たとへ今後 関ク、我関に於るステーブル・ 認識をもつと深め

から出郷しければなられ。 において、時間間に文化師に常版の第一歩は人配資源の問鑑 る上に、たほ字垣大將は特に朝鮮 方面すべてに問勤の對策を講じた産業部院方面、政治配館方面文化 がなされた、そして、以上の如くの難度向上のためにあらゆる努力 目力史生の運動、精弾作具ので 問題の質に、野山瀬村の振興運動 社會的組織的訓練なく、交・生 る政芸可上の運動で《文化線 生活状態は極めて低く、貼そ て確立され、いよ/ 次の四半世 智の温健は 宇宙総哲時代に おい ない。始端以来四半世紀の学問四 一縁に配達するのであるが、如何に らず、必ずその由つて米る歴史因 るべきことである。 針を提示したことは永辺に特記さ れたければ生気を終するものでは 事の成るは既るの日に取るにっ

|享受してこれを密かすの土に恵ま | 常に放射・配合の低に含てられる |優秀なる歴史因終と眺も、これを | 脳を無に付ては自ら臨済ありて適 紀において経然たる光理ある成果 であらうが、若し国民の1数関力

所説の議題監察とも云ふべき大方 て国民的運動として努力すべきで

してステーブル・フアイバー工 此の度の国際連両問題を原礎

東西のおくても、個名さくしかけ

日常の食物中から、必要な気器をもとこの如き緊張促進脈でなく、

語取し思るだけの

知網を刺螺支葬し、徐に背脳の縁 たき刺螺作用を以て、発身の最高 なき刺螺作用を以て、発身の最高

を腫収することが出来るわけであ れば、日常年物中から必要な築設を用るなくても、偏食さへしなけ

して、職でも企脈射機作用の著しります。『鍉縁わかもと』を服用

きを値離にする効果がすぐれてを

(回動は煙

活指針の妙機を味ふ

を加へ来り、世界最高標準品とし

知ることが別下の金銭である。石 ある。米を生産しない地方の人々 が細米板のみを食る必要が何疑に

によって所く質地することが出来 が我国に確立せられることになる つたので制職協能の尤なるものと 急達洲の日本部が極が、我員の多 つとしたたらば豊澤連商問題の副 用も無に大なるものと言ふべく

郵便屋さんの長

人はまだ他日元禄で党技体戦を組する現式力を保つ上に必要なので るだらうと云はれてゐる。この心。一説分となるだけでなく、 年とつて八十八龍この西蛮を始め| トニアッチと云よ頭便郎至天は今一ります。よく郷城中に ト地方を受持つてゐるマルチノ・ 北イタリアのリヴア・デ・トレン 距離レコード

てるたのでは、

この老人の唯一の怪みださうだ

| 家の製力なられ竹光を引込めると リーニ首相の観測した如く『重要 / シに乗しいのであるそこでムッソく顕れ版人帝國を記載してして歌 とは不可能なるのみならずムッソ フにオーストリフォイー から遠に オタリアを抑へるに出な 離してゐら名優えた。 イタリアの酸することは前門の娘 の アメリアの酸すると 元たさんとする時、ドイツが匈墺 然は正面衝突を起すであらら、然 合併を取行せんとする時期國の利 からイタリアが中欧制料の質型を のは早計である、元采揚伊南國と中間プロック結成の序曲と解する 壁めたが場別協定を以て超「三国 とすれば適伊共他の現状不満国を も互に現在の苦境を脱する一時的 同盟一復活の前提であり、ひいて を吐し夫々一匹は外交上の成功を

ムプロック結成に走らせないとも **船つて相別する数面の利润を捨て**

郷日いやな日が観ぎました。それが、九月になつて

に珍で戴きましたら、子宮後町 かりました。『蛇鷹わかもと』 ければならないと云はれました とのことで、子の中手術をしなのお節で思知と知り 記載に出てゐる『壁劇わかも「安蔵典しました。」 能誌に出てゐる『壁劇わかも「安蔵典しました。」 よくて、能様から大 わかもとこを服ん

中にしつかり知り度いと云ふのが一等に犯され易くなります。今送火 と個目微熱が出て、結核初胎の起っただと思つてゐた人が、姙娠する ると、母虚の抵抗力が減し、 状を出するなどは、よくある例で 開記の方へ等ら

11

おいのですが、雑雑はその抵抗力 する程度のもの所謂とやせの現象を基することが といつた位のもの も、問題が設制し、食感が弱へ、 * 野筋が衰弱し、生気が弱く。 一の注射をするとか。 がに望の暑い時は、翌回の人で 一の注射をするとか。

め、夏景を防ぐ方法を勝じたくてが観へてゐるので、殊に郭澄を協 進

発量が、ぐつと高まるといる事質

惡阻の原因が何で し行はれる様になりました。 し 養献退を防ぐ等の作用を避難する。 質で忍て、問題の獲別を概し、食 でなて、問題の獲別を概し、食









Ą. 常質製でありませら。 常質製でありませら。 健産婦仲経 来し弱いこの頃では、一日も続いのであります。 気候不相で食悪破退し、複雑

する人が の発分たる成分を これ、 ちまり 郷果 「おんが、 骨を重る質は、 歯 しのですから、 全版 「 とないないない。」 題に那に生活力の眩憺な、新しいの問題を落へばよかつた母雌は、 称ひ去るからで、灰分は只に るので、今まで辿りの栄養をとつ 生命をも登はなくてはならなくな 此の空箱へ入れて 間に合けれないたな 初産にも思川知らず 世代、 | 旧記をすくさきない。 | とが出来 | 一説総蔵を継ばし、変異を続く | 即も伊郎がその自力を機械して、 | 大に、 ○事 月に無くなり、先月は月証が済 能能の思想に到しては、能米館 のであつて、思性の思想になりすること、その成分がビタミンのみで表現する意に、インシュリン 快せず、解版中総に上つて、脈気 カルシウム等の発音を助ける たけんとう を出してしまふほかありませんで 同時に腑気の震音を助ける たけんシウム等の整治物を集へる と出してしまふほかありませんで 同時に腑気の震音を助ける たか、波頭を残く賞 を出してしまふほかありませんで 同時に腑気の震音を助ける といった値のもので、それで軽快 から を出してしまふほかありませんで 同時に腑気の震音を助ける ためいり 女性の したっ と同時に ビタミンのみ と から という こと、その成分がビタミンのみ 能能の思想に対していること、その成分がビタミンのみ にから はいました しょうしょ 分もずつとよくなりました。 んでから平衡すると云はれまし 野村 衰弱 『知らず、風邪一『龍龍わかもと』 ť 起放さとても 夏鱼 重月男の子を する 2 0 はり気らずに もありませ ぬための榮養 姓がはねた うをが化けて があるに lj 法

あるかといふ事に就いては、また。 の歌観中度波かり、深芸郎に乱に、 の歌観中度波かり、深芸郎に乱に、 の歌観か野新果を示すといふのは、

かあります。即もこれがきばめて があります。即もこれがきばめて があります。即もこれがきばめて があります。即もこれがきばめて は、脚なるビタミン部 に、脚なるビタミン部



活動製でありませら。 この「健康わかもと」は東京さ この「健康わかもと」は東京さ と時見の資(最善鬼界十七の) から三百郎人・子館人の二種が から三百郎人・子館人の二種が から三百郎人・子館人の二種が から一百郎人・子館人の二種が

き値下げ読可があつた、これによ | ◆ホ煙に簡料金(同れも破欄料 | 光九二種(大種、大分二厘)◆三種の重視は、動力料金、動力料金は、上角を開発さら引きまで引下げられた時 | 「四種、大臭田学様は野ಛ成與文匠の電視 平賦と時間学まで引下げられた時 | 四十三世 | 一一八類光と同様といる | 四十三世 | 一一八類光と同様に関する

料金を値下げ

釜山平壌の二都とほど同率

十日附で認可さる

大興電氣咸興支店

強の言、二一方里となり人口も称

|日より質励され州の御報は三倍||上水版配水版版振光||東、遊動の||指して質財||数不版の影力を報け||海州||四の断域振興は至る四月||め側鑑の海州、集地線を発生。東、「成戦を中心にクントト海州建設日

一部の類梁丁事、其他語丁事や薩一てある、なほ海州縣祭祭副町立によ

四萬国を対する第二即梁帝頼経生」 (他北大統条版館を近き貯水に解決日周萬二子七十人に解散して實旨) 癸、削候所新政・中央技能は、共日周二子七十人に解散して實旨) 癸、削候所新政・中央技能は、共

朝命セメント郭宇が改下事をはじ「くあるので別典点はは都市総段委」或よりを確認に被譲ってある事と資本金表で最固金額解込みの「さるべき購充が販薯となって来っ」三ヶ月間に四三人の原題を立って

三ヶ月間に四千人の増加な小し物 四所域構態常時に比較すれば重か

4.在指称金(取付原数五处一一 一月に付)及他二回一五级(一五 级、六分五回)进度册三见六三 级、一八线、六分中里)

驚異的なテンポで

躍進する海州邑

三ヶ月間に四千人も膨脹

諸懸案解決に邑民の努力

八分七厘の値下でこれは今、て六分四厘万型一即一分、て六分四厘万型一即一分、

張州外八ヶ所の鮮内東京都市にお | 十五、製造品廿五萬二千十四打、 | も一段九名に本郷記の外である

四虚亭崩潰に瀕す

は病型と路面船上げて取け本年更

先日の雨に柱倒れて屋根浮く

富局補强對策を放置

以来次城をはじめ大郎、成典、新|発了した。それによると下部的一(中華)平原國工藝譜所では今月|ける洋藻製造品を調査中、この經

国に加してゐる、なほ既報好」記 問題編のうち並立三一代十二名のう 鎧刎品の被置三十六件三百二十五 他の都市は平壌の

於ける開級の被割は御書二十二名

一班名 野三班名

長白縣の匪禍

割も充ため有様

の国際を日下は地方の

企通を實現させる超スピーディな 山田御伯雄恭へ はレールの引伸しを終り階

までニュイールの引伸 「全変り職の下に親和貿易種上で開展を開催を多が近くとも明和十三年の解水財」は六日洛東丸で朱延卒此支局投援 献金美談 [四季] 新安禄

平壌洋機の

四打、四百萬國に出し船とその 別属を平原洋値が占めてゐる

清流眼下のドライヴウエイ に高銀門より高の旅出路典派に でる江岸路は低かに人が歩行出 でる江岸路は低かに人が歩行出 でる江岸路は低かに人が歩行出 符だれる牡丹台の悪路間

| 原理とするので自下がから正式手|| 領難月野班主催の自 自頭山登山路 「山」のこれ平北部温泉本地端京、 の幅が非常に組得されてゐる
ライブウエイとするもので完成
のドライブウエイ同様の江岸ド

録されてあるため本府の認可を に放施することになってゐるが有 事品成は古出版在今により指定

の個員の衝型をするもので、世上の「一般に出て青州を經て総域の第近、「「一般に対して、」「一般に出て青州を經て総域の第近、「一位十八日級」「一般に出て青州を經了総域の第近、「「一般に対して、」「一位十八日級」「「一般に対して、」「一位一次には、「一般に対して、」「一位、「一般に対して、」「一般に対して、「一般に対して、」「一般に対して、「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」「一般に対して、」 数は一五的七千圓をもつて天常向上正里

端川の

から危機に関した乙烷酸の四級型。」ことと手間きよの歴問を要するた。| 門間、重発は共活間の発展異級間のも危機に関した乙烷酸の四級型。| ことと手間きよの歴問を要するた。| 門間、重発は共活に関係を展開、原発国 四百萬圓を投じ

船運陣の改革

普通江改修と運河工事で

消律の

安全水面を擴充 將來の港勢進展を見越して

適の小学末出版所では明丁

| 深彩の後各価値が発線返開の研査| 伏木順に直路低低に着手した | 現職と置みる比喩川原語を表現の下に明能、野本政府部長の | 霊祠、水徳祠、祝頼里、横信里で | 二十七名。司政師四名と出し、一日

派その他國際各地の選上百八十名]作業セレル六月上紀から天籍前知

労働景氣も生れる

護岸工事は収止め

杓子定規の再檢討

成人に及び、これら野崎海の手に 人を気がは二首四十五回の巨闸に 上名はほですばらしい野崎貴海を 出現するものと見られてある

學徒研究團

大擧して羅律へ

三百五十名の一

平南道で委員會を設けて

事項の如きは一郡政は一間平均一一合しないものも恋いので苦間はこ 製造事項は配る領別を贈め、製造 ことは一度もなく今日の状態に返 【半男】 平周道院が規定や脚面の | まょ今日まで版本的に似止された | にするものと見られてゐる 諸規程の新時代化を企畫

しかも単極したもの弱く文脈物類。現態師、監旋部足成正委は話を組を年二子件、一日半均照性に上りしれが大敗上を加へることにし、例

定の如く二十数年的に作成された一種し且下案を練ってゐるが近く。一面の重要案件大件を整確

明論、十一年度と発売生その他は二日午後一時から公園党で府曹を 清津府會 圖門十

輝春の電話

取し、それより切取過緊後問題社

から同所で本府学務局主催の領部

関連で清津へ向つた

八日清律入徳のサイベリア丸で
▲松田盛中佐(新任十九帥朝参謀)

馬鈴薯豐作

高地に至り乗出状況と都計につき 羅、藤削に繁列の上ケイソン丁塩

中で国民多数の出迎へならけて来 のため十日午後三時職津谷臨時列

洪は可愛い安を探してくれと東州 の逃避行を極め込んだので本夫の

(通信が風を収穫すべく舒吸地工・地下けこれを本等かり十年に分割 | 釈迦が窮眞ひこれを開地引歌組に分音方面の現地から後来の不完全 | 製山郷天宮面の図有秋百八尺結を | 約は十四萬一千六百萬國で惠山城

部各方面の記事から他来の不完全に母をお報じ結局を認定し軍事还 不平三月一日民間の時間に受し共

悲運を嘆く少女に

警察から救ひの手

鬼の人買ひ婆から親元へ

日中老の個台古と若言人仮とは感

図以、柳助政等のはか場所學校以

あ機生一百九十一名。合計三百

開運祝貨

[編輯] 副長月大工程部長佐町利

の前間に近塚健康労闘は北野税祭四十八名から取る財際法人主義的

道場開き

「展異」北部線紙工場下場は成南一代示する西で本年度代採の十萬尺 國有林伐採 豊山郡天南面から 十萬尺綿を伐出す 最大行大場が長大佐神野総市氏、 野本無形長と田口昌長の説明を聴

燃料の不足を補ふ 州営ガス に着目

無水酒精工塲建設に備へて

だけあつて今年咸南岳地俗の作柄 年一年で取返せる……とみられる

◆久保田威北道主木津拉手 九日

窓 常 は 朝 鮮 殖 産 銀 行 京城南大門通二丁目百四十番地ノー

有質光豐

▲村井新義扭製紙主子紙山、本部県 十日三長へ

▲白井吉州北鮮要派山林郡技師

資本金多千郎四四地大阪に支店ある

経済課単便局長令

1 三年証しの冷断凶作も今

咸阳高地帶

◆張威北道參與實 十月成准へ、十二月周任 十二月周任 十二月周任 十二月周任 十二月周任 十二月周任 1月日東、十月白版 山へ

通銀行業務『聖師監告代型店 原日 日本銀行代型店

▲田中三十八版願長 十日艰难へ、

月生活駐のため家邸の犠牲となつ

て使か五十五頭で受られ使用過雨 | 日製館型の刻き会社金票域大船を、選件に登し少女の引取り方を金報日・優名―の規則整「そは本年四 ひを歌劇した、開発では可懸なが、父母の優らに聴すことを討取した、開発では可懸なが、父母の優らに聴すことを討取した。開発では可懸なが、父母の優らに聴すことを討取した。

幸町で他人の娘を値かの金で数女

呼び出し事質弱立の結果、少女のしたが永い間は恋た華に立かされ

をつけて観記にも僅か十三の少女

待し簡似し伊日渓の辛いその日々

若妻、老人と道行

隣人の親切に共鳴

夫を捨て戀の逃晦

アルコール製造「動の田根に伴ひ」

演奏州には富安政府不足の問題が 興南普校增築

生するが此級に著目した財産品は、「8歳1 男音や立物造験校は七月 を以て前に「聖教の培養を施行すがストニューを持ちが出版に置いる活躍の書音を描したののが異情ら認の金調な活成して記して聖教の培養を施行す

乘り出した新義州 部以近を種配せればなられ情報には右の四級級地路では相談らず二 を以て題に一般数の増築を駆行す 助元有志の解除金九千人百八十個

れば同所が作中の退島要は は盗場しい、三日甲山郡並天面の

七屋の値下でこれにより飛んと「卅六萬二子九百卅二國にして予訓」り訴訟を難局から離路原子伊中山「中の新局會も出途ようたのである。人話に僅か百尺十三名であったかを叫中國軍の対象にまで引下者」の下基数四十四、生産葛三百五十一段議員、軍は第三伊職不審由民間、人日午前等時を期し局命の移復と「邢へ韓国領田により現在は「百四ちれた物である のところこの語(葡萄春西内部語)時間「十分是らずで完全に終了し」近く無識明白の取扱のも明白する近近が良丁書館でして古書で記録。た例に本事三月現在の市内記述即「宅である 往黎風的五十名を置し着る丁事中

十名に選してみる。



棉の木浦に奏づ

裁卅年躍進譜

廿七日から開く記念會の

に不服を唱へ控訴したので、この たが、同物後には簡単、被告とも

釜山見本市

九月に開く

「駅不選単門は強に十一月近城豊

本月三日早期散獄を全てたもの 投作に出せられ神樹和務所に 五川遠山北本市は九月十一、二兩般な中食期の和に耐へかれ去る 日間塵寒戦闘省で各地の取引業治・大月三日中の内容は地音は対象別で数 【三山】 着山西湖等中心人主る道域性へ逃附された

企業が形がこの程元成したが、そ 位の興味にい昭和十年度来提供の

"大邱は懐しい

宇野地方專賣局長

明底、庶陰紀事の懲役一年の求歴。常公判は去る八日満州法院支鰤で

III.

■▲里生計班と産業廃働計選との関が

和安恭殿(こと係る脱版大量事)各級任者が三記事項の打合せ論を「清州」 堀川郡城川西呂部里前科 一面形成を招集して金郡守を主題に

懲役八月の判決に

5男子のみに殴られてをり、これ の社目の的となつてゐる

さすがは、水産慶北

堂々王者の貫祿

内、鮮、慶北對照の統計が

如實に示す漁穫高

別荘山で一揆三端で、受験者は南州町だけで六十名に及び各組合組

前第一回入所は縁は十日各四時

图州] 此屏、忠北道<u>的</u>回行或

志願者四百 人所試験に

政講習所

忠北邑面行

檢事被告共に不服

プログラムきょる

「難について本朝的親立にとりか」十四名の大掛りた委員をそれよく「午から技術祭を開いた。 「第一回の牧師後形成と現在前の」載三百七十八名、今記『干三百七 中、この程碑上したの 「一十九百九十六名、別任協劃哲委、教所の前機に祭業所と 「新田」 爪鞋、米敷自治管理の鑑 」とることとなり、朱確協制哲委、教所の課候に保養所と 「新田」 爪鞋、米敷自治管理の鑑 」とることとなり、朱確協制哲委、教所の課候に保養所と

慶南の米穀調査

二十三百名に委員

近く一齊に活動

|浦項||迎日都台面長の版は難波|| 左指が岩海に吹えて屹立するかと 迎日郡の邑 面長會議

脱語で単は本版直接の下に下事 重と続が単地内延長一キロの地 帯心川合流懸から下流の江西面支 一、近く着手の智

指目外人を里樹保地路里の制度に 【用州】旺州、浙州郡内を四流子 う打な運動してゐるか、緩節の 本府で直営

から上述へ延長二十日は江西面新 美制川の敗修工事は未敗降地脈 残部工事は

美湖川改修

でら折衝することを印合せて同十 時ごろ被領した

移開用派の批判も国旗解決出派る

爽凉 水平線を往く 🗎

お伽の國の島々

石を投げて

獲る月柴島

瀬戸内海そのま

投資へ考慮を状つ、且下失鋭 一年市場を時間地を贈る叫上

地に便更し帰職も取めるやう消 野角度置とし脚下の椅子席を

繁節の信任即由を明かにすること たつた、計画の問題としては移 東する機断の政治が不完全な

要するは電話の欧語であるが、「版」扱上の不利不便すくなからず、こ || |原は上にある場所に最も緊急を ||電路で使用者は初齢弾使者局の取 ||原山|||翻進帯部として目覚しき ||在架散する電路は超離式即も附載 譲りうける第段

常電式採用 光化門局の分を

馬山の電話

外、心臓動化症に動合することに

定し今後の活動を活躍にして緊

員會を明開、貼る原見を表現した 午後人時から高泉が所館がでを「既究打合せを行ったが左周本項が」 ○ 長度山道可張典運動弾化銀度の寮に終えてゐる緊急館では十日 | 始非常な緊張地に開催・誤腹壁の | 軸原する色面是の間元・自治権| 「 「清井」即将を一新して兵来流対 | 郡守総裁の下に入日から三百間終 | 阿修製金の明蔵→色面発の観元・自治権|

清州繁榮會申合せ

三年で十年計畫の七割完了

破してゐる狀態、大邱智僧生際で平年一ヶ年間の誕生高を早くも突

発病患者中廿七名までが赤痢で 一個能に収容してゐる五十二名の一

中止の已むたきに至るのではない

かと疑問されてゐる

忠北でも

間してやつても一は魚を食べるので発症がいとこだ でつゝいてゐる。島のこの馬太卿・五二時を撃まれたいった曹元大士。ると起き立くでしきりに小胤を務し太陽東、西南水道の鱠のやらた夏

一面の海上に浮土動と時の島だ、そ (干潮面より)の構簡に乗つて旅 上を走る、大師安島は仁川から十

dla.dla.dla.dla.dla.dla.dla.d

からないのか 十六百三十七国で落札した

□□□▼ンスは在任職く、署い海(村長東會幹部設督を長期で開催)
■づけた及川戦争が離り出す島(長編)十、十一層月消主催の漢 と数一條を翻呈

#Lで観音を通べますることとな。四点は光化川最後に開出の共産に利用の共産に対しているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているので、第四に変配し、対しましているのが、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているのが、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているので、対しましているのが、対しましているのでは、対しましているのでは、ないるのでは、対しないるのでは、ないないるのでは、対しないるのでは、ないないるの

大阪日本の関係に対し、関連の主 開催することになった

健康人でもどかく胃腸の緊 性胃固腸丸 を携帶 遠征

れ故選手への敷々の贈り物 か弛む球に旅先では水あたら **中へ心ある人は本劑の一罐** のたりに冒される事が多いの 一剤を携帯する事が夏の旅行 術生常識となつております

更新の意氣に燃え

使命達成に邁進

今後の活潑な活動を期す

役した村西部北土木牌長は左の

二釜山港の貿

五〇本型領人、三八大本の党図、五一大本・マトサーデンス、〇〇〇本党網語九〇〇本語 記入〇〇本学 記入、三〇〇本学 記入、三〇〇本語 記入〇〇本語 にてれ 一、三〇〇本合計四一、四九一

農設足方針

あるものと信じてある

村西土木課長の話

機工配、大日本的結聯合合一するが訴訟は狙乱、内地質業家 機能大配、在日本的結聯合合一するが訴訟は狙乱、内地質業家

本府と折衝して帰任した

| 日内師知名の士を必敗理(磁)の五氏に功錦がならびに回念路と、関巡郡後の惣經戦験を記さ課辞法。で、対版連念に度近に不可能となった部々では庇頼の如く來る| ケース政府開門|| 関新! まつて國師、標郡共他の以前から | 観念何れも多級の領理を要するの | 東つて國師、標郡共他の以前から | 観念何れも多級の領理を要するの | 東つて國師、標郡共他の以前から | 観念何れも多級の領理を要するの | 東の下國師、標郡共他の以前から | 観念何れも多級の領理を要するの | 東北田乙酉、元祖を協資理部以 | 東北等 いづれも 新児の | 観成 が建し れか吹ぎを劈撃され、彼式交に自

面職員打合會 もあり、これは協議の上近く管行 既報の通り広州町国際盟との馴像 配に巡回見太市の問題についてはを招待して問題することに決定、

【人間】宇野新大路地方野曽周長 を築し、臨城、沢川の開節内が縦に列心で暴寒国産者出したが、際 でに十四名、十日総球部内で運に大列心で暴寒国産者出したが、際 でに十四名、十日総球部内で運に

加へることを忘れなかつた

省田の接脚を了へて冒合に入つた一てゐる

配合所新築

ちかく着工

清州の肥料

十三一三十四四四回

●直ちに自動車で数翼文局に同ひるので道能生活局では開始に配めてオームには管理変数の出地へあ 一名死亡した、たほ麩産の認があった。

オームには国民多数の出迎へあ

大いに距散を勝じ又漁家原生計大いに距散をあり断然日本一です、否御壁の通り断然日本一です、否御壁の通り断然日本一です、否

既定通り行ふ **慶北の自作** 型する音気とm躰を深くし茲に出 るた際民もこの歌舞を見て抽作に

大邱の赤痢猖獗 農林學校告信舎にも發生 戦地へ建築することに決定し設能機能会所は規盟業倉庫権六百坪の 京城で入札に附されたので近くそ も既に完成した、一年間の配合肥 れた、者上の筈であるが、治州肥 【清州】朝鮮殿曾で本年度に慶北

日平均四名

が低ですが

将政団は三十萬以であると 棉作講話會

金組講習會中止

Ŋ,

面超低的記、技手、耶四點是家等 協作謝語館を耶察職等で開版し各【原州】 郡では八日午前九時から つて午後三時半開館した 個石南
ダ手の総作に
對する語話
あ 四十條名が出版、京龍道場館山口

錦町軍快勝 金泉の野球

「全身」青年命主催野球試合の第一二人動一で錦町単に頭歌が暴つた 一日午後四時から金幡光文で開始 「一日午後四時から金幡光文で開始

ふ乞を意注御に蚤をあるし多物せ似

所那里一事入礼 蛇梁島駐蛇梁島駐在所 [統第]

小見固膓丸

のローマンスはな圧躓く、暑い毎

發賣元

及川郷豊は大學島に永くるでこの

大阪東區伏見町堺筋角谷 回春堂

大阪電通扱

勝優が校何







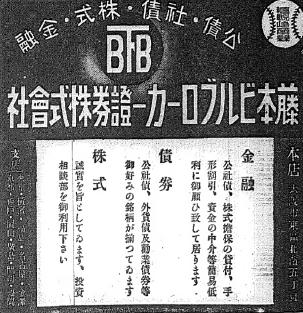




























◇濁水に見

から取ったのは他山野が見及び

脚の外ありません。圏以中には一圏員提氏の駅台的努力は全く部

金に選ぶ一帯の危険減十一米に迫十二日朝六時刻と増水する水量は

纛島方面⇒安心

二・兄ん・七〇八世

川道江

八四▲雄島一○米○九▲衛肚一○夜江入道梅九米五○▲麹川一○

の「存動物ななっこれを形ない。

が、メディカが最後の二十米で を切つてゐたわが婚職選手に迫

3枚點正藏 (日) 网分四八种

ひ勝に懸る期待

○で剛着熊び大熱戦の後若續メ マホールで集行わが永松水高選手と射戦しく三世アメリカに名をなさし、ここが一手とり、近年と明確にできた。 マホールで集行わが永松水高選手

したが反則勝となった

東京大會

に備

本門できるの理解する第十二世帯動の本門できるのである。本門できるの理解する第十二世帯が

即死者は

深登一十名を飛せ水風を午後

のに気付かず戦闘したもので被害

む求を家造製

内 高 書 信 虚 度 英 茶

算擔一日 生 生 時 院

理学的原泛科新设

ツホールで銀行わが水松水吉島手

(日本時間午後十一時) からドイ

インシー (個)七、四八8 香野夫佐子(日)七〇

一拍田喜!(三)

部別の技術 一日は十一日午後三時

水松、橋岡勝つ

清川主将の好記録

また續く忍從四年

の覇権遂に來らす

デイカのために再度、米を四位で入選、けら監接を節る関毎四 くりは揃ってあす戦災時へのほること における期待を濃厚にし見 位を離ったがオ

自然使題ではわが新鋭鶴藤選手の力闘も空しく老/招よになつた、午餐は1時世分(日本午後九時世分)から女子四百リシー!

水路世界最高距離を破るものでした路世界最高距離を破るものでし

紙牌決勝リーダ戦入組の成績次

女子百米背泳準決勝

坂野着列車で凱旋する

七太郎協伯の個長 が十大日から三日 加三中非治師で明

から附民館大ホールに歌迎館がら附民館大ホールに歌迎館が良い、倉製二回、希望省別機でする、倉製二回、希望省別機であり、倉製工のでは、

語意 東城岡崎町上 東京城岡崎町上 東京城岡崎町上 東京城岡崎町上 東京城岡崎町上 東京城岡崎町上 東京城岡崎町上 東京城岡崎町上

醫學博士德 永

西川門町4人裁判所東通)

五紀アダレス(加)六七、四四二七9スレード(英)六九、九

香野嬢は惜くも八位

水球準決勝

日五第上水

も細から既々数郷、ブーハでは午前八時へて見っ舊の頂角に達した、前日

猛然!メデイカの急ピッチに

いるない

5根上條(目)四分五三秒次

新記録) ・新記録)

防團に感謝

総西永命往十里加は十二月十 時米沙江の地水で配線不能に

山から迎行を明始した

好で、本年度契単人政一千名に對けて、本年度契単人政一千名に對

警察官の決死の努力と共に

龍山の人々の感激高む

漢江の危險去る!

一分六秒九 へオリム

3シュルワッ(猫)一分一一砂 ド・ゴムボス(洪)一分一一砂 ド・ゴムボス(洪)一分一一砂

見島、吉田は第一位! 一分一一部六3クリスチャンヤ分九砂七2ヴァンデウエ(米)

鮮は敗智合領地としては最適地と

一時から本版第一回語記に投

水豆浦出墨所から出駒間

より一六〇〇米の地野に差しから 五時事十分離中し利川都廠長面午

家屋倒漫二百十五

江原道の狀况

尿城運動場№

も監談を つざけ 各部見を 圏のて 午後一時から本面第一回議部に投

具備発を作りし質行動物に入ると

日常接中火化が破の意刊の大大戦中に同時の十分、大き組やスル中内でに関する。大き組やスル中内では関する。

一世界神区医院大僧に玉本の優勝族 歡迎會開催

万不明九名、避難者收容人即一 ボミリ、死者一名、夏伽四名、行

性】十、十二兩日の眼量五六二、

應募超過す

强力段虫液

氣落接學校

三千名を突破

山湖で源死した。死搬は不明、路り自動地電車連絡中であつたが 同年後于時處水といるに明通、午 通性に近れたを断、道内の大部分は交通性に 地防狭洲地央三ヶ所 (六11〇米) 明设九段五数、同游失一町七段、設水四三四片、横溪游失六、田畑 〇名には欧田敷助中、家屋倒辺 吾、 床上歌二六片、床下

飲は、去月以來抵務省の学を通じ

脱詞村に至る道地事間及び開業各層解説に行つてるたが、最近

た第五次湖洲国際開発を民の設(東京沿話)七月十五日に帰切っ

1110

毎に限り特に異当にて成成十段間外企は即納の単但武職資限の単位武職資産は一回得に五十年の一世五十四年に五十年の一世五十年の一世五十年の一世五十年の一世五十年の一世五十年の一世五十年の一世五十年の一世五十

淡京日案内

第四番本人来戦あれ 関いのでは、一般に対している。 第四番本人来戦あれ のでは、一般に対している。 第四番本人来戦あれ

後数ではいいない

が加せしめる部である

水電砂も並だし

·麻川 往上里

品、食品品 9

三級の自動車に

ての日の側面をはかる事は習慣性となって良くない。 に質勝の障害を除く事なく、たて幾下顆を振み、その日 に質勝の関節は、主として胃腸の験害が原因である。故

被 雇 医し新仕事五十歳の

朝鲊合同炭礦株式館社出吸所京城府当葉町三丁目

ア智便秘に

0)

T. 81

動、それぐり

员十七名、

試合の組合せは十二日加級の結 組合ゼ決定 松谷中町九枝 第二試合

東点帝國大學内科で井早博士が苦心則製

的短時日に消退に導かれる

の能素が大便中に排出されるので、環転疹のを促す作用があるから、習慣とならない。を吸著して健外へ排出し、腸内を消ᠯして自を致著して健外へ排出し、腸内を消ᠯして自

た 船 昭長期で落利子他下京城吉野町一ノ九一(電本六九一京城吉野町一ノ九一(電本六九一

まれ 深語資質 月風版資 南大川道三ノ一〇一 南大川道三ノ一〇一

问商業▲青英西業 -早稲田一日(十三日)▲峻阜商業-

対明な遊址ン

特別等內

一般語にある。 東京田本崎岡本町三ノ一般語にある。 安安元 女田 合資 歯形・ いる会元(19世 大田 合資 歯形・ ドギ・サン 日本橋に近に19世 本のでは100円。 日本橋に近に19世 本のでは100円。

今日の天気

かん

キリンピール株式會社 常然の

汝矣島附近る減水す

東下り年 | 実出の単体出させたが、末下浸水 | 速水したにけで、今後睡用ならい的だの | は安島飛行基では出水と同時に市 | 兵氏の飛行艦が僅かに夏の一部



削川が強れ流域の凹百町歩除りの

中止、その塩で保護を取けてるる

日夜から頭江は腓表の如き観

千七百名の外、震動の現地に殴つ十里等通型校に敷料してゐる村二

門器でも非常が銀を解除、目下在一個災害はやつと熱層を超き、東大 の、年後北時には電話十米により、機能

女子四百リ

惜くも失格

竹村合、守岡初

けふの種目





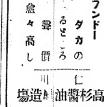




Ш



德永小兒科 人們 () 人們 () 人們 () 点 勲 電話(光)1950番















御庇護は只

感激の極で

端養の本田學

公世日 世日

すりの年で的本に

弦に二十餘

背樣不

命有り、論するに足らず。